

I 総括報告

社会福祉法人として円滑で強固な組織運営と組織体制の強化、また、地域福祉の推進、高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉の各事業の更なる充実に努め、同時に、鶴岡市社協の事業運営の基本となる「地域福祉活動計画、事業経営計画、発展・強化計画」の初年度として、それぞれに示された課題を計画的に推進しました。

地域共生社会¹の実現に向けて「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」として、地域課題、生活課題が複雑化、深刻化している状況のなかで、個別支援（見守り、生活困窮、ひきこもり、高齢者・障がい者）と地域支援（地域支え合いプラン）に取り組み、また鶴岡市担当課と協議を重ね令和 4 年度より新規事業（重層的支援体制整備事業移行準備事業）の受託準備を進めながら地域福祉推進の更なる強化を図りました。

令和 3 年度も令和 2 年度に引き続き新型コロナウイルス感染症予防対策等に努めながら国、県の補助金を活用した感染予防のための環境整備を進めました。さらに、鶴岡市の補助金を受けて緊急小口資金拡充支援資金貸付に継続して取り組むと同時に、貸付世帯の実態把握に努めました。

重点事業

(1) 法人運営の充実・強化

社会福祉法人として「発展・強化計画（第 3 期）」（初年度）に基づき、組織運営と組織体制の強化や組織統治（ガバナンス）、労務管理体制の強化に取り組みました。また、手狭になった事務局移転に関わる事務事業を計画的に進めました。

(2) 地域福祉活動の推進

鶴岡市の「地域福祉計画」と連動し、地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画 2020」（初年度）に基づいた地域福祉活動、並びに各福祉センターにおける「地域支え合いプラン」に基づいた地域福祉活動の側面支援に努めました。また、新たに地域福祉ワーカーを位置づけ、コミュニティソーシャルワーク²実践の基盤づくりを進めました。

(3) 生活支援事業の推進

判断能力に支障がある方の福祉サービス利用や日常的な金銭管理等の支援、財産管理や身上監護の成年後見等の支援に努めました。同時に、権利擁護に関わる総合的な支援のあり方については、鶴岡市から示された施策に基づき検討を進めます。

¹ 地域共生社会：「地域共生社会」の理念とは、制度・分野の枠や、「支える側」「支えられる側」という従来の関係を超えて、人と人、人と社会がつながり、一人ひとりが生きがいや役割をもち、助け合いながら暮らしていくことのできる、包摂的なコミュニティ、地域や社会を創るという考え。

² コミュニティソーシャルワーク：援助を個別化するだけでなく、地域（社会）共通の課題と捉え、個人の援助とそれを支える地域（社会）の活動への支援を同時並行的に働きかけていく活動。

身元保証問題等、既存の制度では支えきれない方に対する新たな支援の仕組みについては、先進地の事例等をもとに検討しました。今後さらに、相談支援機関等への調査を行いながら具体的な内容の検討を進めます。

(4) 相談支援事業の推進

鶴岡市委託事業の「地域包括支援センター」「鶴岡市障害者相談支援センター」並びに「鶴岡地域生活自立支援センター」それぞれが関係機関との連携を図り、専門相談窓口として機能の充実に努めました。さらに、地域福祉課、各福祉センターと連動をしながら、鶴岡市からの受託事業への準備として具体的な進め方等について検討しました。

(5) 高齢者福祉、障がい者福祉事業の充実

「第三期鶴岡市社協事業経営計画」（初年度）に示された、基本的な視点と重点課題に基づいた取組を計画的に進め、また各事業の経営状況の把握、分析、課題整理を進めながら将来性、継続性を見通した事業の検討、見直しを行いました。

新型コロナウイルス感染症予防対策に努めるとともに、利用者、職員に新型コロナウイルス感染症の陽性が確認された場合は、対応マニュアルに基づき当該事業の休止対応をするなど集団感染の発生防止に努めました。

共同生活援助事業として、グループホームの運営を計画的に進め、障がい者福祉の充実に図りました。

(6) 児童福祉事業の充実

「第三期鶴岡市社協事業経営計画」（初年度）に示された、重点課題に基づいた取組を計画的に進め、また関係機関との連携を密にしながら各支援の質の向上や事業間の連携強化を図りました。同時に、新型コロナウイルス感染症対策に努めるとともに、利用者、職員に新型コロナウイルス感染症の陽性が確認された場合は、鶴岡市担当課と連携を取り、情報共有を図りながら、対応マニュアルに基づき当該事業の休止対応をするなど集団感染の発生防止に努めました。

学童保育所の入所希望児童の増加への対応として、鶴岡市担当課と協議を重ねながら環境整備に取り組みました。

Ⅱ 法人運営

【令和3年度役員】

	職名	氏名
R3. 4. 1	会長	山木知也
	副会長	山口 朗、板垣壯典、阿部恵子
	常務理事	伊藤周一
	理事	畑山孝一、渡邊 健、原田道芳、原田みゆき、大井一昭、瀬尾忠衛、武田憲夫、阿部英子、平藤久喜、伊藤彦市、澤邊みさ子
	監事	長谷川 清、相澤康夫、佐藤満也
	評議員	佐々木榮三、鈴木淳士、櫻井修治、平田充廣、板垣吉徳、田村廣実、小林幸一、佐藤新太郎、半澤正昭、榎本トヨ、井上 実、難波久男、本間健一、齋藤秀雄、菅原 司、加藤昌司、武田功之、伊藤貫正、石川一郎、後藤るみ、佐藤満子、佐藤重勝、小松金悦郎、岩浪武司、千田洋子、橋本廣美、加藤由喜子、平藤博巳、菅原しづ子、齋藤 積
R3. 6. 28 (一斉改選)	会長	山木知也
	副会長	山口 朗 (R3. 11. 8 まで)、板垣壯典、阿部恵子
	常務理事	伊藤周一
	理事	畑山孝一、渡邊 健、渋谷俊美、原田みゆき、佐藤妙子、伊藤秀紀、武田憲夫、阿部英子、平藤久喜、伊藤彦市、澤邊みさ子
	監事	相澤康夫、佐藤満也、原田 洋
R3. 6. 28 (一斉改選)	評議員	佐々木榮三、鈴木淳士、櫻井修治、土岐純一、沓澤 実、田村廣実、小林幸一、難波一彦、佐藤寿一、山中町子、半澤正昭、榎本トヨ、井上 実、難波久男、本間健一、佐藤清一、菅原 司、鈴木郁生、加藤昌司、佐藤さく子、佐藤こず恵、石川一郎、佐藤保政、小南孝子、佐藤満子、松田修一、小松金悦郎、岩浪武司、千田洋子、橋本廣美、五十嵐 武、加藤由喜子、平藤博巳、菅原しづ子、五十嵐庄一
R4. 1. 7	理事	阿部真一

1. 理事会・評議員会開催報告

第1回理事会 令和3年5月27日（木）

【議事】

議第1号 旧鶴岡まちなかキネマ土地建物取得に関わる売買契約について

第2回理事会 令和3年6月11日（金）

【報告】

報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について

【議事】

議第2号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会定款の一部改正について

議第3号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会公印管理規程の一部改正について

議第4号 居宅介護支援事業所の営業日変更に伴う関係規程の一部改正について

議第5号 鶴岡市地域生活支援拠点等事業の実施に伴う関係規程の一部改正について

議第6号 令和3年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出補正予算について

議第7号 令和2年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事業報告の承認について

議第8号 令和2年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出決算の承認について

議第9号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第10号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第11号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第12号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第13号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第14号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第15号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第16号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第17号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第18号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第19号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第20号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第21号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第22号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第23号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第24号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第25号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会監事の選任について

議第26号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会監事の選任について

- 議第 27 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会監事の選任について
議第 28 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会令和 3 年度第 1 回評議員会の開催について
議第 29 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会評議員選任候補者の選出について
議第 30 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会令和 3 年度第 1 回評議員選任委員会の開催について

第 3 回理事会 令和 3 年 6 月 2 8 日（月）

【議事】

- 議第 31 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会会長の選定について
議第 32 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会副会長の選定について
議第 33 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会常務理事の選定について

第 4 回理事会 令和 3 年 9 月 2 2 日（水）（決議の省略）

【報告】

- 報告 1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
報告 2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について
報告 3 介護保険施設における食費改定に伴う関係規程の一部改正について

【議事】

- 議第 34 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会準職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
議第 35 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会嘱託職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
議第 36 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会契約職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について

第 5 回理事会 令和 3 年 1 2 月 2 2 日（水）

【報告】

- 報告 1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
報告 2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について
報告 3 介護保険施設における食費改定に伴う関係規程の一部改正について

【議事】

- 議第 37 号 令和 3 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出補正予算について
議第 38 号 指定認知症対応型通所介護（指定介護予防認知症対応型通所介護）事業所老人デイサービスセンターはちもり運営規程の一部改正について

- 議第39号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第40号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会令和3年度第2回評議員会の開催について

第6回理事会 令和4年3月18日（金）（決議の省略）

【報告】

- 報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
報告2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について
報告3 指定就労継続支援事業（B型）事業所・指定生活介護事業所もみじが丘運営規程の一部改正について

【議事】

- 議第41号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会経理規程の一部改正について
議第42号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会就業規則の一部改正について
議第43号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会職員給与規程の一部改正について
議第44号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会準職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
議第45号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会嘱託職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
議第46号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会契約職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
議第47号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会職員育児休業・介護休業等に関する規程の一部改正について
議第48号 指定認知症対応型通所介護（指定介護予防認知症対応型通所介護）事業所くしびきデイサービスセンター運営規程の廃止について
議第49号 指定通所介護事業所なえづ老人デイサービスセンター運営規程の一部改正について
議第50号 指定生活介護事業所なえづ生活介護事業所運営規程の一部改正について
議第51号 指定通所介護事業所温海デイサービスセンター愛寿園運営規程の一部改正について
議第52号 介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所介護相当サービス事業所温海デイサービスセンター愛寿園運営規程の一部改正について
議第53号 休日保育事業の廃止に伴う関係事業所運営規程の一部改正について
議第54号 支援単位の増加等に伴う放課後児童健全育成事業関係事業所運営規程の一部改正について
議第55号 藤島老人福祉センター運営規程の制定について
議第56号 羽黒老人福祉センター運営規程の制定について
議第57号 櫛引老人福祉センター運営規程の制定について

- 議第58号 令和3年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出補正予算について
議第59号 令和4年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事業計画について
議第60号 令和4年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出予算について
議第61号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会苦情解決に関わる第三者委員の選任について
議第62号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会副会長の選定について（議案撤回）
議第63号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会令和3年度第3回評議員会の開催について

第1回評議員会 令和3年6月28日（月）

【報告】

- 報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
報告2 旧鶴岡まちなかキネマ土地建物取得に関わる売買契約について
報告3 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会公印管理規程の一部改正について
報告4 居宅介護支援事業所の営業日変更に伴う関係規程の一部改正について
報告5 鶴岡市地域生活支援拠点等事業の実施に伴う関係規程の一部改正について
報告6 令和2年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出決算について

【議事】

- 議第1号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会定款の一部改正について
議第2号 令和3年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出補正予算について
議第3号 令和2年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事業報告の承認について
議第4号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第5号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第6号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第7号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第8号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第9号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第10号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第11号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第12号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第13号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第14号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第15号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第16号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第17号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第18号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

- 議第 19 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第 20 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会監事の選任について
- 議第 21 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会監事の選任について
- 議第 22 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会監事の選任について

第 2 回評議員会 令和 4 年 1 月 7 日（金）

【報告】

- 報告 1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告 2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について
- 報告 3 介護保険施設における食費改定に伴う関係規程の一部改正について
- 報告 4 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会準職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
- 報告 5 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会嘱託職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
- 報告 6 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会契約職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
- 報告 7 指定認知症対応型通所介護（指定介護予防認知症対応型通所介護）事業所老人デイサービスセンターはちもり運営規程の一部改正について

【議事】

- 議第 23 号 令和 3 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出補正予算について
- 議第 24 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

第 3 回評議員会 令和 4 年 3 月 28 日（月）（決議の省略）

【報告】

- 報告 1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告 2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について
- 報告 3 指定就労継続支援事業（B 型）事業所・指定生活介護事業所もみじが丘運営規程の一部改正について
- 報告 4 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会経理規程の一部改正について
- 報告 5 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会就業規則の一部改正について
- 報告 6 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会職員給与規程の一部改正について
- 報告 7 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会準職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
- 報告 8 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会嘱託職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について

- 報告 9 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会契約職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
- 報告 1 0 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会職員育児休業・介護休業等に関する規程の一部改正について
- 報告 1 1 指定認知症対応型通所介護（指定介護予防認知症対応型通所介護）事業所くしびきデイサービスセンター運営規程の廃止について
- 報告 1 2 指定通所介護事業所なえづ老人デイサービスセンター運営規程の一部改正について
- 報告 1 3 指定生活介護事業所なえづ生活介護事業所運営規程の一部改正について
- 報告 1 4 指定通所介護事業所温海デイサービスセンター愛寿園運営規程の一部改正について
- 報告 1 5 介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所介護相当サービス事業所温海デイサービスセンター愛寿園運営規程の一部改正について
- 報告 1 6 休日保育事業の廃止に伴う関係事業所運営規程の一部改正について
- 報告 1 7 支援単位の増加等に伴う放課後児童健全育成事業関係事業所運営規程の一部改正について
- 報告 1 8 藤島老人福祉センター運営規程の制定について
- 報告 1 9 羽黒老人福祉センター運営規程の制定について
- 報告 2 0 櫛引老人福祉センター運営規程の制定について
- 報告 2 1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会苦情解決に関わる第三者委員の選任について

【議事】

- 議第 2 5 号 令和 3 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出補正予算について
- 議第 2 6 号 令和 4 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事業計画について
- 議第 2 7 号 令和 4 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出予算について

2. 監査実施報告

第 1 回監査 令和 3 年 5 月 2 8 日（金）

【内容】 令和 2 年度事業報告及び決算等に係る監査

第 2 回監査 令和 3 年 9 月 2 1 日（火）

【内容】 施設（ふれあい、くしびき南部保育園）訪問による監査（令和 3 年 4 月～6 月期）

第 3 回監査 令和 3 年 1 1 月 2 6 日（金）

【内容】 令和 3 年度半期（令和 3 年 4 月～令和 3 年 9 月期）監査

第4回監査 令和4年2月24日(木)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

3. 会計監査人による監査実施報告

期末監査 令和3年5月13日(木)～5月15日(土)

令和3年5月19日(水)～5月21日(金)

【内容】 令和2年度計算書類及び財産目録の監査

第1回期中監査 令和3年11月29日(月)～12月3日(金)

【内容】 監査(令和3年4月～令和3年9月期)、施設訪問(高齢者福祉センターおおやま(訪問介護事業所おおやまサテライト含む)・たかだて)

第2回期中監査 令和4年3月7日(月)～3月11日(金)

【内容】 監査(令和3年10月～令和4年1月期)、施設訪問(愛寿園・もみじが丘(茶ヤ町荘含む)、温海福祉センター)

4. 理事検討班実施状況

法人運営検討班 令和3年5月27日(木)

【内容】 1. 発展・強化計画(第2期)の総括について
2. 発展・強化計画(第3期)について

地域福祉検討班 令和3年5月27日(木)

【内容】 1. 第3次地域福祉活動計画(案)の説明
2. 第3次地域福祉活動計画(案)に対する意見交換
3. まとめ

事業経営検討班 令和3年5月27日(木)

【内容】 1. 第二期事業経営計画について
2. 第三期事業経営計画について
3. 今後の施設経営について

5. 事業推進報告

令和3年	4月	1日	辞令交付式(かたぐるま)
		14日	福祉センター長会議(保健福祉センター)
		15日	事業経営会議(かたりあい)
		20日	車両リースに係る入札会(送迎車両関係)(郵送入札)
			指名業者: 5社
			落札者: (株)トヨタレンタリース山形

- 落札金額：12,124,800円（6年リース）
（非課税12,124,800円）
- ※たかだて、とようら、くしびき 3台分
車両リースに係る入札会（訪問系車両関係）（郵送入札）
指名業者：5社
落札者：日立キャピタルオートリース(株)東北支店
落札金額：2,028,000円（5年リース）
（税込2,230,800円）
- ※とようら、訪問介護事業所 2台分
- 22日 第1回事業経営計画全体会議（かたりあい）
- 23日 社協広報「おだがいさま」入札会（保健福祉センター）
指名業者：4社
落札者：鶴岡印刷(株)
落札金額：868,800円（税込955,680円）
- 5月11日 福祉センター長会議（保健福祉センター）
- 13日 会計監査人による期末監査①（～15日まで・鶴岡市ゆうあいプラザ
かたぐるま分館）
- 19日 会計監査人による期末監査②（～21日まで・鶴岡市ゆうあいプラザ
かたぐるま分館）
- 21日 福祉センター長会議（保健福祉センター）
- 27日 第1回理事会、理事検討班会議（出羽庄内国際村）
- 28日 令和2年度事業報告及び決算等に係る監事監査（保健福祉センター）
- 31日 旧鶴岡まちなかキネマ土地建物取得に関わる売買契約締結
契約の相手方：鶴岡市山王町13番36号
株式会社まちづくり鶴岡
買収物件：土地 4筆 7,068.93㎡
建物 1棟 1,582.72㎡
- 6月 1日 三役会議（保健福祉センター）
- 3日 学区・地区社会福祉協議会幹事会、連絡会（保健福祉センター）
- 7日 令和4年度職員採用試験募集開始（～7/16まで）
- 10日 福祉センター長会議（保健福祉センター）
- 11日 第2回理事会（保健福祉センター）
- 14日 高齢者福祉センターおおよま車椅子・マットレス等の購入入札会
（高齢者福祉センターおおよま）
指名業者：5社
落札者：(株)タマツ
落札金額：3,215,600円
（税込3,371,120円、一部非課税物品含む）

- 第1回評議員選任委員会（保健福祉センター）
- 16日 鶴岡西部児童館運営委員会（鶴岡西部児童館）
- 23日 鶴岡南部児童館運営委員会（鶴岡南部児童館）
- 24日 暘光児童館運営委員会（暘光児童館）
- 25日 大山児童館運営委員会（大山児童館）
- 28日 第1回評議員会、第3回理事会（荘銀タクト鶴岡）
- 7月 1日 鶴岡老人福祉センター運営委員会（鶴岡老人福祉センター）
- 7日 中央児童館運営委員会（中央児童館）
- 8日 児童福祉施設に対する指導監査（くしびき西部保育園）
福祉センター長会議（保健福祉センター）
- 13日 児童福祉施設に対する指導監査（大山児童館）
- 15日 児童福祉施設に対する指導監査（鶴岡西部児童館）
藤島地域福祉委員会（藤島庁舎）
- 16日 鶴岡市社会福祉協議会事務局移転工事設計業務委託に係る入札会
（かたりあい）
指名業者：7社
落札者：ブレンスタッフ(株)
落札金額：8,300,000円（税込9,130,000円）
事業経営会議（保健福祉センター）
- 20日 児童福祉施設に対する指導監査（中央児童館）
第1回日常生活自立支援事業 生活支援員会議（保健福祉センター）
- 27日 児童福祉施設に対する指導監査（くしびき保育園、くしびき南部保育園）
温海地域福祉委員会（温海庁舎）
- 29日 朝日地域福祉委員会（健康の里ふっくら）
- 30日 櫛引地域福祉委員会（櫛引老人福祉センター）
- 8月 1日 職員採用一次試験（在宅リモートで実施／11名）
- 3日 高齢者福祉センターおおよま照明器具LED化工事入札会
（高齢者福祉センターおおよま）
指名業者：5社
落札者：庄内通信建設(株)
落札金額：3,364,000円（税込3,700,400円）
- 4日 苦情処理経過報告会議（保健福祉センター）
- 6日 介護保険施設等AED更新に係る入札会（保健福祉センター）
指名業者：6社
落札者：(株)トーク
落札金額：2,613,280円（税込2,874,608円）
鶴岡市成年後見連絡会（保健福祉センター）
- 10日 羽黒地域福祉委員会（羽黒老人福祉センター）

- 11日 福祉センター長会議（保健福祉センター）
- 12日 鶴岡市ボランティアセンター運営委員会（保健福祉センター）
- 27日 車両リースに係る入札会（送迎車両関係（小型バス））（郵送入札）
 指名業者：5社
 落札者：㈱トヨタレンタリース山形
 落札金額：7,826,400円（6年リース）
 （税込8,609,040円）
- ※くしびき南部保育園
 車両リースに係る入札会（送迎車両関係（軽福祉車両）等）
 （郵送入札）
 指名業者：5社
 落札者：日立キャピタルオートリース㈱東北支店
 落札金額：3,504,000円（5年リース）
 （税込3,650,400円、非課税車両1台含む）
- ※櫛引福祉センター、愛寿園 2台分
- 29日 職員採用二次試験（保健福祉センター／9名（うち4名は在宅リモートで実施））
- 9月 6日 地域福祉センターなえづ高压受変電設備更新に係る入札会
 （かたりあい）
 指名業者：5社
 落札者：配工電気㈱
 落札金額：2,980,000円（税込3,278,000円）
- 7日 児童福祉施設に対する指導監査（くしびき東部保育園、暁光児童館）
 （書面審査）
- 8日 三役会議（保健福祉センター）
- 9日 児童福祉施設に対する指導監査（鶴岡南部児童館）（書面審査）
 福祉センター長会議（保健福祉センター）
- 21日 監事監査（令和3年4月～6月期・ふれあい／くしびき南部保育園）
- 22日 第4回理事会（決議の省略）
- 24日 第1回社会福祉法人連携における公益的な取組にかかる連絡会
 （保健福祉センター）
- 28日 地域密着型サービス事業者等実地指導（なえづ老人デイサービスセンター）
- 30日 第1回法人後見運営委員会（保健福祉センター／14名）
- 10月 4日 職場代表者会議（保健福祉センター）
- 8日 福祉センター長会議（保健福祉センター）
- 14日 くしびきデイサービスセンターろ過機更新に係る入札会
 （保健福祉センター）

- 指名業者：5社
 落札者：荘内汎機(株)
 落札金額：3,200,000円(税込3,520,000円)
- 15日 表彰審査委員会(社協事務局会議室)
 櫛引地域福祉委員会(櫛引老人福祉センター)
- 19日 事業経営会議(保健福祉センター)
- 20日 指定障害福祉サービス事業者等実地指導
 (鶴岡市ゆうあいプラザかたぐるま就労継続支援事業(B型)事業所)
- 23日 職員内部登用一次試験(保健福祉センター/5名)
- 11月 2日 防犯カメラ設置・購入に係る入札会(保健福祉センター)
- 指名業者：4社
 落札者：(株)大滝商会
 落札金額：860,000円(税込946,000円)
 ※鶴岡西部放課後児童クラブ、第一学区学童保育所
- 4日 指定障害福祉サービス事業者等実地指導
 (短期入所センターおおやま)
- 11日 福祉センター長会議(保健福祉センター)
- 24日 職員内部登用二次試験(保健福祉センター/4名)
- 25日 鶴岡西部児童館運営委員会(鶴岡西部児童館)
 第2回日常生活自立支援事業 生活支援員会議(保健福祉センター)
- 26日 指定障害福祉サービス事業者等実地指導
 (温海グループホーム茶ヤ町荘)
 社協表彰状贈呈式(保健福祉センター)
 令和3年度半期決算に係る監事監査(保健福祉センター)
- 29日 会計監査人による期中監査(～12月3日まで)
 (鶴岡市ゆうあいプラザかたぐるま分館・高齢者福祉センターおおやま
 (訪問介護事業所おおやまサテライト含む)/たかだて)
- 12月 2日 学区・地区社協役員、コーディネーター等研修会(保健福祉センター)
- 3日 大山児童館運営委員会(大山児童館)
- 7日 無期労働契約説明会
 (保健福祉センター/月給制契約職員対象10名)
- 8日 鶴岡南部児童館運営委員会(鶴岡南部児童館)
 無期労働契約説明会
 (保健福祉センター/日給制・時間給制契約職員対象15名)
- 9日 暁光児童館運営委員会(暁光児童館)
 福祉センター長会議(保健福祉センター)
- 10日 三役会議(保健福祉センター)
 事業経営会議(かたりあい)

- 14日 中央児童館運営委員会（中央児童館）
- 15日 鶴岡市社協安全運転研修会（保健福祉センター／43名）
- 17日 地域における公益的な取組についての研修会
（オンライン開催／108名）
- 22日 第5回理事会（鶴岡まちなかキネマ）
- 1月 7日 第2回評議員会（保健福祉センター）
- 13日 福祉センター長会議（保健福祉センター）
- 2月10日 福祉センター長会議（オンライン開催）
- 3月 7日 会計監査人による期中監査（～11日まで）
（鶴岡市ゆうあいプラザかたぐるま分館／愛寿園・もみじが丘（茶
ヤ町荘含む）・温海福祉センター）
- 9日 三役会議（保健福祉センター）
- 10日 福祉センター長会議（保健福祉センター）
- 14日 職場代表者会議（オンライン開催）
- 18日 第6回理事会（決議の省略）
- 28日 第3回評議員会（決議の省略）
- 31日 退職辞令交付式（保健福祉センター）
高齢者福祉センターおおやま一般廃棄物及び産業廃棄物収集運
搬業務入札会（高齢者福祉センターおおやま）
指名業社：3社
落札者：(有)大滝商店
落札金額：2,094,000円（税込2,303,400円）
高齢者福祉センターおおやま防火対象物点検業務及び消防設備
等点検業務入札会（高齢者福祉センターおおやま）
指名業者：3社
落札者：山形ニッタン(株)庄内支社
落札金額：974,000円（税込1,071,400円）

（令和4年度）

- 令和4年 4月 1日 辞令交付式（かたぐるま）
- 21日 事業経営会議（かたりあい）
- 22日 社協広報「おだがいさま」入札会（保健福祉センター）
指名業者：4社
落札者：鶴岡印刷(株)
落札金額：868,800円（税込955,680円）
鶴岡市社会福祉協議会事務局移転工事入札会
（保健福祉センター）
指名業者：18社
落札者：(株)マルゴ
落札金額：260,000,000円
（税込286,000,000円）

車両リースに係る入札会（訪問、送迎車両関係）（郵送入札）

指名業者：8社

落札者：オリックス自動車(株)山形支店

落札金額：10,050,000円（5年リース）

（税込10,839,000円、非課税車両1台含む）

※居宅介護支援センターたかだて、ふれあい、訪問介護事業所ふれあいサテライト、訪問介護事業所とようらサテライト、訪問介護事業所おおやまサテライト、鶴岡市ゆうあいプラザかたぐるま、鶴岡市障害者相談支援センター、地域包括支援センターかたりあい 8台分

- 26日 第1回理事会（保健福祉センター）
第1回事業経営計画全体会議（かたりあい）
- 28日 地域福祉部門 センター長・所長会議（保健福祉センター）
- 5月12日 会計監査人による期末監査①（～14日まで・鶴岡市ゆうあいプラザかたぐるま分館）
- 18日 会計監査人による期末監査②（～20日まで・鶴岡市ゆうあいプラザかたぐるま分館）
- 25日 福祉センター長会議（保健福祉センター）
- 26日 令和3年度事業報告及び決算等に係る監事監査（保健福祉センター）
- 30日 第1回日常生活自立支援事業 生活支援員会議（保健福祉センター）
- 6月 1日 三役会議（保健福祉センター）

6. 広報「おだがいさま」発行状況

- 第93号 4月1日発行
- 第94号 6月1日発行
- 第95号 8月1日発行
- 第96号 10月1日発行
- 第97号 12月1日発行
- 第98号 2月1日発行

Ⅲ 組織運営

(1) 社会福祉法人としての適正な運営

法人の内部統制の強化に積極的に取り組み、適正な運営に努めました。

理事会及び評議員会の開催については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため決議の省略とする対応も行いましたが、大きな混乱等は見られませんでした。

監事及び会計監査人による指摘事項や指導内容については、迅速かつ適切に対応することで、法人全体のガバナンスの更なる強化を図ることができました。

(2) 事務局体制の見直し、強化

法人内における新型コロナウイルス感染症対策として、迅速な情報収集と対応策についての協議、伝達、実施を組織的に行うことで、混乱なく各事業の運営を行うことができました。

本部事務局移転については、令和 3 年 5 月に株式会社まちづくり鶴岡から土地建物を取得し、令和 4 年度の建物改修工事に向けて実施設計を行いました。また、改修工事の発注に向けた準備を計画的に進めました。

(3) 健全経営と経理事務の強化

監事と会計監査人による監査の連動により、財務規律の確立と内部指導の強化及び適正な経理事務を実施し、コンプライアンスの徹底に努めました。

法人全体の財務状況が大変厳しい状況となっていることから、経営基盤の安定と強化を図り持続可能な事業展開を進めるため、プロジェクトチームを設置し検討を進めています。

(4) 労務管理体制の強化と職員処遇改善への取組

全体的な労務管理の見直し整理には至っていないものの、年末調整の業務については、実施時期を早め業務を分散するなどし、煩雑になりがちな業務の改善に努めました。また、勤怠管理システムの運用については、不具合な部分の改善を図り、安定運用できるよう対応を進めています。

処遇改善については、令和 3 年度の最低賃金の改定に基づき、契約職員等の給与表の見直しを実施しました。

(5) 人材確保と人材育成の推進

人材確保については、職員確保が難しい状況の中、若い年代（高校生）の職員採用を強化するため、令和 3 年度も地域の高校を回り求人活動を実施しましたが、新規採用を得ることができませんでした。

令和 3 年度、一般採用では 8 名を採用しましたが、応募者のほとんどがホームページを見て情報を得ていたことから、当法人に就職を希望する人の興味、関心の高い情報の

発信など、ホームページの効果的な見せ方の検討を進めました。

人財育成については、キャリアパスの研修を「第三期鶴岡市社協事業経営計画」の取組と連携して行いました。

(6) 「発展・強化計画（第3期）」の推進

令和3年度が「発展・強化計画（第3期）」の初年度であることから、今期計画の進め方と進行管理について、関係者による整理を行いました。

また、地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画 2020」及び「第三期鶴岡市社協事業経営計画」との連動については、各計画の内容について管理職研修で説明を行い、共通理解を深めることができました。

<会員・会費の状況>

地域	会員区分		29年度	30年度	31(R1)年度	R2年度	R3年度
鶴岡	一般会員（世帯）		27,315	27,169	26,922	27,883	27,850
	賛助会員	個人	812	818	832	851	843
		事業所	443	431	414	404	395
	会費額		16,162,100	16,072,650	15,945,630	15,913,800	15,674,640
藤島	一般会員（世帯）		2,616	2,642	2,572	2,597	2,613
	賛助会員	個人	4	3	2	3	3
		事業所	43	37	28	22	23
	会費額		1,476,730	1,442,300	1,390,700	1,382,000	1,392,000
羽黒	一般会員（世帯）		1,969	2,020	2,037	2,021	2,025
	賛助会員	個人	4	3	3	3	3
		事業所	13	13	24	22	23
	会費額		1,031,500	1,062,500	1,097,500	1,079,500	1,086,500
櫛引	一般会員（世帯）		1,832	1,811	1,816	1,815	1,819
	賛助会員	個人	126	133	132	132	132
	会費額		1,042,000	1,038,500	1,040,000	1,039,500	1,043,500
朝日	一般会員（世帯）		1,135	1,123	1,102	1,083	1,081
	賛助会員	個人	4	4	4	4	3
		事業所	24	25	22	22	23
	会費額		691,500	669,500	638,000	632,600	636,500
温海	一般会員（世帯）		2,508	2,472	2,438	2,374	2,343
	賛助会員	個人	39	40	37	37	40
		事業所	58	60	59	58	57
	会費額		1,540,000	1,525,000	1,483,000	1,449,000	1,411,500
合計	一般会員（世帯）		37,375	37,237	36,887	37,773	37,731
	賛助会員	個人	989	1,001	1,010	1,030	1,024
		事業所	581	566	547	528	521
	会費額		21,943,830	21,810,450	21,594,830	21,496,400	21,244,640

<職員の状況>

(単位：人)

年 月	職員数	内 訳				
		正規	嘱託	契約 (常勤)	契約 (パート)	市派遣
H29.4	823	305	13	222	283	0
H30.4	835	303	12	201	318	1
H31.4	831	310	19	201	300	1
R2.4	825	313	18	195	298	1
R3.4	821	311	23	186	300	1
R3.5	821	311	23	188	298	1
R3.6	827	311	23	192	300	1
R3.7	822	309	23	192	297	1
R3.8	822	309	23	190	299	1
R3.9	824	309	23	191	300	1
R3.10	827	308	23	193	302	1
R3.11	827	307	24	193	302	1
R3.12	826	307	24	193	301	1
R4.1	825	307	24	193	300	1
R4.2	823	307	24	193	298	1
R4.3	822	305	24	191	301	1

<職員の給与の状況>

(令和4年3月31日現在)

項目 職位	平均年齢	平均 俸給月額	平均 勤続年数	人数	性別内訳	
					男	女
局長・次長・参事・課長級	57.0歳	309,000円	23.5年	4人	2人	2人
施設長・センター長級	55.9歳	291,081円	23.1年	21人	6人	15人
主査・係長級	52.0歳	254,421円	21.0年	29人	9人	20人
主任・副主任級	45.3歳	220,180円	15.7年	93人	27人	66人
主事級	38.6歳	198,265円	7.2年	159人	39人	120人
全 体	43.3歳	218,064円	12.4年	306人	83人	223人

<職員の資格取得状況> (令和4年3月31日現在)

資 格	人数
社会福祉士	45人
精神保健福祉士	5人
保健師	4人
看護師（正看・准看）	72人
理学療法士	5人
作業療法士	1人
介護支援専門員	111人
介護福祉士	283人
介護職員初任者研修（旧ヘルパー2級含む）	304人
保育士	107人

※重複あり

<職員採用の状況>

正規職員採用試験

		R3年度	R2年度	31(R1)年度	30年度	29年度
応募者数		16人	20人	25人	35人	45人
採用者数		11人	16人	16人	18人	15人
資 格	社会福祉士	3人	2人	0人	0人	2人
	介護福祉士	3人	2人	5人	9人	7人
	介護支援専門員	1人	2人	1人	1人	2人
	看護師（正・准）	3人	1人	3人	2人	2人
	その他	1人	9人	7人	6人	2人
退職者数		19人	16人	14人	15人	11人

<保有車両の状況>

(令和4年3月31日現在)

	バス	普通自動車	軽自動車	福祉車両	計
事務局	2台	5台	6台	3台	16台
福祉センター	3台	2台	2台	3台	10台
包括・支援センター	—	—	22台	—	22台
通所（高齢・障がい）	1台	1台	4台	47台	53台
入居施設 （特養・グループホーム）	—	1台	—	3台	4台
訪問介護	—	—	24台	—	24台
児童・保育	3台	—	1台	—	4台
合 計	9台	9台	59台	56台	133台

<災害援護金>

火災等の災害に見舞われた世帯に援護金を支給しました。

	31 (R1) 年度		R2 年度		R3 年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
鶴岡福祉センター	3 件	30,000 円	6 件	180,000 円	6 件	110,000 円
藤島福祉センター	0 件	0 円	1 件	10,000 円	0 件	0 円
羽黒福祉センター	2 件	40,000 円	1 件	10,000 円	0 件	0 円
櫛引福祉センター	0 件	0 円	0 件	0 円	0 件	0 円
朝日福祉センター	0 件	0 円	0 件	0 円	0 件	0 円
温海福祉センター	3 件	30,000 円	0 件	0 円	0 件	0 円
合計	8 件	100,000 円	8 件	200,000 円	6 件	110,000 円

<旅費等一時援護金>

旅費等に困窮し、目的地まで到達できない方に隣接市町村までの旅費等を支給しました。

(支給金額：隣接市町村までの旅費等)

	31 (R1) 年度		R2 年度		R3 年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
鶴岡福祉センター	16 件	14,250 円	14 件	20,440 円	11 件	20,690 円
温海福祉センター	4 件	1,750 円	0 件	0 円	0 件	0 円
合計	20 件	16,000 円	14 件	20,440 円	11 件	20,690 円

IV 事業運営

1. 地域福祉事業

(1) 総括

鶴岡市全域を対象とした第3次鶴岡市地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画2020」（計画期間令和3年度～令和7年度）及び市内全地域における小地域福祉活動計画「地域支え合いプラン」（計画期間令和3年度～令和7年度）に基づき、地域福祉活動を実施しました。

特に、地域福祉課及び福祉センターの地区担当職員を地域福祉ワーカーとして位置づけ、コミュニティソーシャルワークの実践に取り組むことができました。複雑・複合化した課題を抱える世帯への支援については、他機関との調整・連携により解決に向けた支援を行う必要があり、また、継続的支援を要するため、これらの状況を踏まえ、鶴岡市の担当課と協議を重ね、令和4年度より鶴岡市が実施主体となる「重層的支援体制整備事業移行準備事業」を鶴岡市社協が受託することで検討、調整を図りました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、緊急小口資金特例貸付等の貸付世帯に対し生活支援課と連動して、フードバンク³による支援を行いました。

(2) 重点事業

① 地域福祉活動計画及び地域支え合いプランの推進

令和3年度に策定した第3次鶴岡市地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画2020」の進行管理については、PDCAサイクル⁴に基づき、進行管理シート等を活用しながら単年度ごとの進行管理・評価を進めました。

また、鶴岡地域の21学区・地区の地域支え合いプラン推進については、学区・地区社協等を中心に地区担当職員が関わりながら、進行管理・評価シートを活用し、単年度ごとの目標を設定し取り組みました。

さらに、鶴岡地域以外の福祉センター地域における地域支え合いプランについては、地域福祉委員会等により検討を行い、進行管理を進めています。

② コミュニティソーシャルワークの実践

令和3年度から、コミュニティソーシャルワーク実践のため、地域福祉課と各福祉センターの職員を地域福祉ワーカーとして位置づけ、個別支援と地域支援に重点を置き活動を

³ フードバンク（食料銀行）：包装のいたみなどで、品質には問題がないにもかかわらず市場で流通できなくなった食品を企業などから寄附を受け、生活困窮者などに配給する活動。

⁴ PDCAサイクル：「Plan（計画）」「Do（実行）」「Check（評価）」「Action（改善）」の頭文字からとった言葉で、業務の効率化を目指す方法の一つ。計画から改善までを一つのサイクルとして行う。

行いました。また、民生委員・児童委員との関係構築のため単位民協定例会へ出席し、地域福祉ワーカーの取組の周知、個別ケースの情報収集を図り、個別ケースへの対応を行いました。さらに、困難ケースへの支援を行うため、生活福祉資金貸付業務を行っている生活支援課とのケース共有会議を行い、地区担当職員が担当ケースの生活の現状確認などを行いました。

③ 災害対応への強化

災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルを活用し、鶴岡市社協職員によるマニュアル共有会議、また、NPO法人鶴岡災害ボランティアネットワーク、青年会議所、鶴岡市社協職員等が災害ボランティアセンタースタッフとしての対応を学ぶ災害ボランティアセンター研修会を開催し、有事の際に迅速に行動するための訓練を行いました。

また、NPO法人鶴岡災害ボランティアネットワーク、鶴岡市防災安全課、鶴岡市地域包括ケア推進室、鶴岡市社協により、鶴岡市災害ボランティア対応について協議し、災害発生時の各部署間の連携について確認を行い、災害ボランティアセンターの設置候補場所の選定など具体的な準備を進めました。

④ 多様な福祉教育実践の基盤づくり

ボランティアセンターで行う福祉体験に加え、地域で行う福祉座談会や研修会を通して福祉活動の意識醸成を図りました。また、地域支え合いプランの実践を支援することで、地区担当職員等が地域と学校をつなげるコーディネーターとしての機能を担い、福祉教育の実践につなげました。

◇ 各福祉センターの地域福祉事業総括

・鶴岡福祉センター

学区・地区社協等が策定する、小地域ごとの福祉活動を示す計画「地域支え合いプラン」が、令和3年度より21学区・地区全ての地域で完成し、それぞれの地域で計画に基づいた取組が行われ、各地域担当職員が活動推進の支援を行いました。また、民生委員・児童委員へ各地域担当職員が日頃の活動や地域の現状・課題について聞き取りを行い、個別ケースや町内ごとの抱える困りごとなどを把握し、地域福祉ワーカーの周知を民生委員・児童委員や各地域、関係機関等に行ったことで、相談対応の増加につながりました。小学校等への福祉教育の他にも、学区・地区社協等やサロン活動を通し、住民向けの福祉活動に関する啓発活動なども実施しました。

・藤島福祉センター

令和3年度もふじしま地域支え合いプランの3つの重点目標に基づき各種事業を実施しました。とりわけ地域の特色ある福祉活動として「農福連携プロジェクト」を庄内農業高等学校と一緒に取り組み、高齢者の生きがいづくりを進めました。

福祉相談支援窓口については、藤島庁舎市民福祉課及び地域包括支援センターふじしま

と当センターの三者で定期的を開催している「ふじしまつながりメンバーズ会議⁵」及び「ふじしま地域ケア会議」を通して、地域住民に対する支援の充実に努めました。

また、小学生を対象としたサマーチャレンジについては、ボランティア活動を通じて福祉の心を醸成するための事業として、令和3年度は「災害体験」と「農業体験」の2つのメニューを実施しました。

<地域福祉委員会開催状況>

	内 容
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度藤島福祉センターの事業概要について ・第2次藤島地域支え合いプランについて
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度中間総括について ・第2次藤島地域支え合いプランの進捗状況について (新型コロナウイルス感染症の影響により中止)

<広報おだがいさま地域版発行状況>

- ・第49号(7月1日発行)・第50号(10月1日発行)・第51号(3月1日発行)

・羽黒福祉センター

令和3年度は第2次「羽黒おもいやりプラン」の初年度となるため、各区長や自治振興会等の各団体にプランを配布し計画の周知を図りました。

平成31(令和元)年度から開設している「いっぷくどうぞ」は、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、会場を老人福祉センターと一部の地域活動センターへと変更した結果、例年より多くの方から参加していただき有意義な取組となりました。

自殺予防対策としては、こころの健康づくり講演会を広瀬地域活動センターにおいて開催し、さらに住民組織の代表や羽黒庁舎等と連携し「羽黒地域こころの健康づくり応援団」による出前講座を1カ所で開催しました。

また、令和3年度の新たな取組として高齢者や障がい者の生きがいがづくりの一環としてグラウンドゴルフ大会を開催し、50名の方から参加していただきました。

<地域福祉委員会開催状況>

	内 容
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度羽黒福祉センターの事業概要について ・第2次羽黒地域支え合いプランについて
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次羽黒地域支え合いプランの進め方について (新型コロナウイルス感染症の影響により中止)

<広報おだがいさま地域版発行状況>

- ・第38号(8月1日発行)・第39号(3月1日発行)

⁵ ふじしまつながりメンバーズ会議：藤島福祉センター、藤島庁舎市民福祉課及び地域包括支援センターふじしまの職員が藤島の地域福祉の取組について話し合う、月に一度開催している会議。

・櫛引福祉センター

第2次櫛引地域支え合いプランの理解と周知を図るため、各地区へ座談会方式にて訪問し、地域福祉委員会の意見を参考に「地域でできること」について話し合いを行いました。

関係機関との連携による地域福祉推進活動では、南小学校区において「地域ケアネットワーク会議」により困難ケースについて話し合いを行い、また、自立支援センターふきのとうとの連携により「ひきこもり相談会」を開催しました。来所の相談ケースはありませんでしたが、櫛引庁舎の保健師や地域包括支援センターとの協力体制により、ひきこもりの家族への支援を行うことができました。

櫛引中学校美術部生徒の地域の役に立ちたいという思いを実現すべく、櫛引福祉センターで関わり、令和2年度の「おたすけ配達マップ」に続き、令和3年度は「くしびき水害対策リーフレット」に取り組み、櫛引地域へ全戸配布されました。

<地域福祉委員会開催状況>

	内 容
第1回	・令和3年度の事業計画重点事項について ・第2次櫛引地域支え合いプランについて ・情報交換
第2回	・グループワーク「櫛引ささえ愛プランを進めるために」 地域でできることとは何か、また進め方についての話し合い
第3回	・令和3年度の事業報告 ・櫛引ささえ愛プランの振り返り (新型コロナウイルス感染症の影響により中止)

<広報おだがいさま地域版発行状況>

・第47号(7月1日発行)・第48号(3月1日発行)

・朝日福祉センター

第2次朝日地域支え合いプランの初年度であり、会議等の機会を通じ、地域課題の解決に向けた生活支援の取組について話し合いを行いました。

見守り・支え合い活動の推進では、中央地区自治振興会が実施している「おだがいさま除雪支援ネット」は、対象者・活動実績ともに増加し、住民参加型の生活支援サービスとして定着しました。東部・南部地区では、地域貢献をしたいと考える企業と除雪等困難世帯を自治振興会等がマッチングしました。こうした取組を地域福祉委員会や地域支援ネットワーク会議等で、関係機関へ紹介するとともに、ボランティアセンターと連携しながら企画協力や活動助成、協力企業等の募集などを行い、活動の推進を図りました。

新たなサービスの開発と支援体制の整備では、「福祉有償移送サービス」や「配食モデル事業」を見直し、新たな取組として事業実施を図りました。

<地域福祉委員会開催状況>

	主な内容
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度朝日福祉センター事業報告について ・地域課題の解決に向けた取り組みについて ・地域支え合いプランについて ・令和3年度朝日福祉センター事業について ・朝日全域を対象とする生活支援サービスについて
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度朝日福祉センター事業報告（地域支え合いプラン進捗状況）について ・令和4年度に向けた取り組みについて （新型コロナウイルス感染症の影響により中止）

※地域福祉委員会と連動して朝日地域福祉基金活用検討委員会を1回開催。

<広報おだがいさま地域版発行状況>

- ・第13号（12月1日発行）・第14号（3月1日発行）

・温海福祉センター

令和3年度は第2次温海地域支え合いプラン実施初年度となり、プランを全戸配布するとともに、計画実施のため「福祉教育」を除いた3つの課題について「コア会議」を開催し、具体的な取組について検討を行いました。防災意識の向上では、要援護者マップづくりに先行して取り組んでいる集落を事例として諸会議で紹介し、他集落への普及促進を図りました。社会的孤立の解消では、社会的孤立にある方を対象に「おしゃべりの輪」を新たに開催し、「おしゃべり市場」についても継続して実施しています。福祉教育の強化では、温海中学校3年生を対象に講演会・グループワークを年2回実施しました。福祉有償移送サービス事業の運転ボランティア及び内容の検証では、運転ボランティアが2名増えたことでニーズへの柔軟な対応ができるようになりました。

<地域福祉委員会開催状況>

	内 容
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度温海福祉センター実績報告について ・令和3年度温海福祉センター事業概要について ・第2次温海地域支え合いプランについて
コア会議	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回地域福祉委員会でのグループワークのまとめ
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度温海福祉センター事業中間総括について ・第2次温海地域支え合いプラン推進について （新型コロナウイルス感染症の影響により中止）

<広報おだがいさま地域版発行状況>

・第27号(9月1日発行) ・第28号(3月1日発行)

(3) 地域福祉関連事業

① 福祉コミュニティづくり事業(鶴岡地域)

鶴岡地域の地域福祉推進拠点である学区・地区社協等に対し運営費を助成するとともに、学区・地区社協連絡委員会事務局として会議を開催し、研修会として、第3次鶴岡市地域福祉活動計画の進行管理とあわせ、今後の各学区・地区社協等の活動について情報交換を実施しました。

・助成金交付実績

(単位:円)

No.	学区・地区社協名	助成金額	No.	学区・地区社協名	助成金額
1	第一学区社会福祉協議会	320,000	8	斎地区社会福祉協議会	260,000
2	第二学区社会福祉協議会		9	黄金地区社会福祉協議会	
3	第三学区社会福祉協議会		10	湯田川地区社会福祉協議会	
4	第四学区コミュニティ振興会		11	大泉地区社会福祉協議会	
5	第五学区社会福祉協議会		12	京田地区社会福祉協議会	
6	第六学区コミュニティネットワーク		13	栄地区社会福祉協議会	
7	大山社会福祉協議会		14	田川地区社会福祉協議会	
		15	上郷地区社会福祉協議会		
		16	三瀬地区福祉のまちづくり協議会		
		17	由良社会福祉協議会		
		18	小型地区社会福祉協議会		
		19	加茂地区社会福祉協議会		
		20	湯野浜地区社会福祉協議会		
		21	西郷地区社会福祉協議会		

・鶴岡市学区・地区社会福祉協議会連絡委員会各種会議・研修会

会議・研修名	期 日	主な内容	参加者
幹事会	6月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡委員会への報告、提案事項について ・令和3年度鶴岡市社協、学区・地区社協活動概要、共同募金配分事業、研修会について 	15人
連絡委員会	6月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度事業報告並びに収支決算について ・令和3年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について ・役員改選について 	26人

		・学区・地区社協活動概要、共同募金配分事業	
幹事会	11月5日	・令和3年度学区・地区社協連絡委員会事業実施報告（中間報告）について ・第1回役員・コーディネーター研修会及び情報交換会（案）について	14人
役員・コーディネーター等研修会	12月2日	・説明「第3次鶴岡市地域福祉活動計画おだがいさまのまちづくり計画2020について」 ・情報交換「学区・地区社協の事業について」	47人

② おだがいさまのまちづくり事業

誰もが安心して住み慣れた地域で暮らし続けていくための取組として、地域のサロン活動やボランティア活動への支援、さらに、地域福祉推進組織と地域関係団体等との地域ケアネットワーク会議等を開催し、地域におけるネットワークづくりを進め、住民主体による見守り・支え合い活動の活性化を図りました。

a 福祉活動助成支援

- ・おだがいさまのまちづくり事業助成金交付（鶴岡地域）

学区・地区社協等が地域支え合いプランに基づいた福祉活動の取組ができるよう助成金の交付と地区担当職員による活動支援を行いました。

<活動の実施状況>

(単位：円)

団体名	活動内容	助成金額
第六学区コミュニティネットワーク	高齢者ケア及び地域支え合い仕組みづくり	64,808
京田地区社会福祉協議会	助け合い安心して暮らせる支援活動	64,628
小堅地区社会福祉協議会	防災福祉マップ・安心カード・鍵預かり事業の更新	70,000
西郷地区社会福祉協議会	西郷地区健康づくり事業	32,503
栄地区社会福祉協議会	地域支え合い活動先進地視察研修	40,000
湯野浜地区社会福祉協議会	湯野浜社会参加促進事業	100,000

※令和3年度 6事業 令和2年度 3事業

<ふくし座談会の実施> ・令和3年度は41件申請、うち11件実施

・令和2年度は24件申請、うち3件実施

- ・お茶のみサロン活動助成金交付（鶴岡地域）

鶴岡地域において、町内会・自治会等一定の区域を範囲として地域住民が主体となって取り組むサロン活動に対し、その活動費の一部を助成し地域の見守り活動への支援を図りました。

<助成件数> ・令和3年度 101件 ・平成2年度 108件

・各種活動助成事業（藤島・羽黒・櫛引・朝日・温海地域）

町内会、集落等の自治組織、住民団体等が行う各種活動において、福祉課題の把握や地域ニーズに対応した小地域活動を支援し、住民主体の地域福祉活動の充実を図りました。

<実施状況>

（単位：箇所数）

福祉センター	サロン活動		住民福祉座談会等		ボランティア活動		人材育成		福祉研修・講座		地域福祉サービス等	
	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3
藤島	25	23	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—
羽黒	5	6	—	—	—	—	—	—	2	2	—	2
櫛引	4	5	—	—	—	—	—	—	—	1	2	—
朝日	9	10	—	—	—	—	—	—	—	—	1	2
温海	—	—	4	4	—	—	—	—	—	—	—	—

b 小地域福祉活動支援

第3次鶴岡市地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画2020」の4つの基本的視点「気づきあい・つながりあい・支えあい・認めあい」に基づき、小地域福祉活動の推進を支援し、また、一人暮らし高齢者などの緊急時に備える安心カードの設置を消防本部との連携により支援しました。

<実施状況>

福祉センター	事業内容
鶴岡	① 地域支え合いプランの取組推進の支援 ② 安心カード設置活動 学区・地区社協等が民生児童委員や町内会長などと連携し4,645世帯に「安心カード」を設置。消防本部へ4,330世帯分の設置者名簿を提出。希望する世帯へ「安心カードステッカー」を配布。
藤島	① ふじしま安心カードの設置：設置数206世帯 町内会、民生委員・児童委員及び地域包括支援センターふじしまの協力により実施。
羽黒	① 緊急連絡カードの設置：設置数589世帯 民生委員・児童委員の協力により実施。
櫛引	① 支え合いネット活動：各地区の支え合いの仕組みを推進し、令和2年度までに10地区が設置。 ② 安心カードの設置数：世帯数686世帯1,041人
朝日	① 朝日地域おだがいさまネット活動推進事業 おだがいさま除雪支援ネット（R3.12月～R4.2月まで稼働） 朝日中央地区自治振興会：5自治会・支援対象者12人、支援回

	数 242 回 安心カードの設置:設置数 304 世帯 498 人 自治会、民生委員・児童委員、地域包括支援センターあさひの協力により実施。
温 海	① 福祉連絡カードの設置 一人暮らし高齢者 454 世帯、二人暮らし高齢者 389 世帯、高齢者のみ世帯 88 世帯 民生委員・児童委員の協力により実施。

c. 人にやさしいまちづくり事業（藤島・羽黒・櫛引・朝日・温海地域）

【藤島福祉センター】

子育て世帯への支援を目的としたチャイルドシートの貸出しや、地域活動を支援するための遊具等の貸出しを行いました。

活動内容	件数
チャイルドシート貸出し（16 台）	26 件
輪投げ等遊具貸出し（6 セット）	11 件
擬似体験セット貸出し（3 セット）	0 件
車イス貸出し（1 台整備）	2 件

【羽黒福祉センター】

高齢者・障がい者・子育て世帯等が、地域の中で安心して暮らすことができる環境づくりや生活支援のための事業を実施しました。また、自殺予防対策として、「羽黒地域こころの健康づくり応援団」の活動支援や講演会を開催しました。

活動内容	件数等
障がい者用駐車場(青色駐車場)の整備	2 ヲ所
チャイルドシート貸出し(53 台)※新規 15 台整備	40 件
車イス貸出し（4 台整備）	17 件
こころの健康づくり講演会の開催	34 人
こころの健康づくり出前講座	1 回

【櫛引福祉センター】

子育てサポーター（10 名）による保育園でのボランティア活動を行い、令和 3 年度に引き続き月 2 回の「もの作り」活動を継続し、保育園には、お人形用布団セットを贈呈、小学校では、黒川能の衣装へ名前タグ付けを行いました。

活動内容	件数等
子育てサポーター研修・活動	10 回
チャイルドシート貸出し（93 台）	193 件
車イス貸出し（10 台整備）	27 件
遊具の貸出し	24 件

【朝日福祉センター】

チャイルドシートの貸出しは、子育て世帯への支援として、輪投げ等の遊具は高齢者の生きがいづくり等に活用されました。

活動内容	件数
チャイルドシート貸出し（15台）	10件
疑似体験セット・輪投げ等の遊具の貸出し	3件

【温海福祉センター】

チャイルドシートの貸出しは増加しましたが、ジュニアシートの貸出はありませんでした。また、新型コロナウイルス感染症の感染予防のためバラ公園見学は中止となりましたが、スロープの貸出のみ行いました。

活動内容	件数
チャイルドシート（9台） ジュニアシートの貸出し（2台）整備	21件
車イス貸出し（4台）整備	18件
バラ園入口スロープ整備・移動介助	中止

d 地域福祉担い手発掘・養成

鶴岡地域においては、学区・地区社協役員等を対象に鶴岡市と共催で地域福祉リーダー養成研修を2月に実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止等重点措置により延期し、オンラインでの職員研修を実施しました。

<研修の概要>

開催月日	対象地域	主な内容	参加人数
2月8日	鶴岡	・講演 「福祉協力員の必要性和活動について」 ・講師 東北公益文科大学 准教授 小関久恵氏 ・情報交換会	7人

e 福祉関係団体等助成

福祉関係団体等への運営費助成及び活動助成金を交付し、活動支援を図りました。

<福祉団体等への活動助成の状況>

地 域	31 (R1)年度		R2 年度		R3 年度	
	団体数	助成金額(円)	団体数	助成金額 (円)	団体数	助成金額 (円)
鶴 岡	11	653,000	11	653,000	10	633,000
藤 島	9	365,000	8	315,000	7	305,000
羽 黒	5	240,000	5	240,000	5	240,000
櫛 引	4	118,000	4	118,000	4	118,000
朝 日	4	278,000	4	278,000	3	268,000
温 海	5	365,000	5	365,000	5	345,000
合 計	38	2,019,000	37	1,969,000	34	1,909,000

地 域	助 成 団 体
鶴 岡	老人クラブ、身障協会、民生児童委員協議会、手をつなぐ親の会、母子会、遺族会、保護司会、民間保育園協議会、学区・地区社会福祉協議会連絡委員会、ボランティア連絡協議会
藤 島	老人クラブ、身体障害者福祉団体連合会、民生児童委員協議会連合会、児童健全育成町民会議(4 地区)
羽 黒	老人クラブ、身体障害者福祉団体連合会、手をつなぐ育成会、赤十字奉仕団、しゃべってほっとの会
櫛 引	老人クラブ、身体障害者福祉団体連合会、婦人会、遺族会
朝 日	老人クラブ、身体障害者福祉団体連合会、民生児童委員協議会
温 海	老人クラブ、身体障害者福祉団体連合会、民生児童委員協議会連合会、手をつなぐ育成会、まちづくりチーム YUKAI

f 仲間づくり交流事業 (藤島・羽黒・櫛引・朝日・温海地域)

町内会、集落等で開催されるお茶のみサロン等への活動支援や高齢者等を対象とした介護予防や健康増進、仲間づくりを目的とした講座等を地域の各種関係団体、専門機関との連携により実施し、地域住民の閉じこもり防止や生きがいがいづくりに取り組みました。

【藤島福祉センター】

健康寿命の増進と運動を通じた高齢者の生きがいがいづくりに仲間づくりを目的として、令和3年度より「いきいき健康づくり教室」を毎週金曜日に7回を1コースとして、藤島老人福祉センターを会場に実施しました。

【羽黒福祉センター】

集落等が実施するお茶のみサロン活動等に対して、庁舎市民福祉課や地域包括支援セン

ターと連携し、健康増進や認知症予防等の事業企画や実施の際にも支援を行いました。

また、自由参加型サロン「ハッピー広場」へも合わせて支援を行いました。

【櫛引福祉センター】

櫛引地域の介護保険事業所と鶴岡市社協の事業所（デイサービス・居宅介護支援・訪問介護・地域包括支援センター・福祉センター）の協働により「ふれあい福祉講座」を実施し、櫛引地域内のお茶のみサロン等に出向き仲間づくり活動を支援しました。

【朝日福祉センター】

サロン活動については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止や自粛が続きました。そうした中で、自治会等で開催されるお茶のみサロンへ出向き、配食事業や安心カードの設置などセンター事業の周知を図りました。

【温海福祉センター】

介護保険を利用していない70歳以上の単身、高齢者夫婦対象の語らい広場は年2回を開催予定としていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

市営住宅内の公民館で開催している「おしゃべり保健室」は参加者が減少傾向にあるため、ニーズの再検討を行いました。

③ 会食・配食・交流事業

一人暮らし高齢者等の閉じこもり防止や食の楽しみ、社会参加を進めることを目的に、鶴岡地域では学区・地区社協等の主催、朝日地域、温海地域においてはボランティア団体等の協働により、食事を伴う交流及び見守り事業等へ支援しました。

【鶴岡福祉センター】

新型コロナウイルス感染症の影響による罹患状況等を確認しながら学区・地区社協等が対応策を考え、配食への切り替えや会場に集い交流を図りながら食事はテイクアウト方式で行うなど、工夫しながら事業を継続しました。

<実施状況>

学区・地区名	実施回数（回）	会食者数（人）	配食者数（人）
第一学区	10	0	458
第二学区	0	0	0
第三学区	3	59	18
第四学区	6	169	1
第五学区	6	122	99
第六学区	6	120	60
斎地区	1	0	41
黄金地区	2	0	40
湯田川地区	6	0	271

大泉地区	10	0	153
京田地区	12	19	53
栄地区	7	0	80
田川地区	7	31	29
上郷地区	3	35	0
三瀬地区	8	0	248
由良地区	3	57	7
加茂地区	5	0	382
湯野浜地区	1	64	0
大山地区	7	206	0
西郷地区	1	0	27
合 計	104	882	1,967

【朝日福祉センター】

令和 3 年度より、朝日地域自治振興会、ボランティアグループほほえみ桜の会、当福祉センターが実施主体として、毎日の食事の支度に苦勞している方を対象に、配食ボランティアが弁当の配達訪問と安否確認を行う配食モデル事業を開始しました

<実施状況>

回数 (回)	配食者数 (人)
21	258

※その他お試し利用：4回 57食

【温海福祉センター】

ボランティア（あたたかグループ）が調理した「あたたか弁当」を、75歳以上の一人暮らし高齢者等の自宅へ配食を行いました。弁当の掛け紙の絵やメッセージは地元の小学生の協力により作成しました。

<実施状況>

回数 (回)	配食者数 (人)
11	1,065

④ 福祉有償移送サービス事業

バスやタクシーなどの公共交通機関を利用することが難しい高齢の方や障がいのある方の移動支援事業を福祉車両により行いました。また、運転者を対象とした安全運転講習を計 3 回実施し、安全・安心な運転方法などの基礎的な知識・技術を確認する機会をつくりました。

<事業実績>

(単位：登録数→人、運行回数→回)

年度	鶴岡		朝日		温海		合計	
	登録数	運行回数	登録数	運行回数	登録数	運行回数	登録数	運行回数
31 (R1)	123	2,580	31	162	77	243	231	2,985
R2	97	1,846	29	72	79	234	205	2,152
R3	84	1,609	24	149	79	211	187	1,969

※ 藤島・羽黒・櫛引地域在住の方は、鶴岡・朝日・温海いずれかの福祉センターで対応。

※ 登録数、運行回数は R4.3 月末現在のもの。

⑤ ボランティア活動推進事業

◇鶴岡市ボランティアセンターの運営

<ボランティアセンター運営委員会の開催>

第1回 令和3年8月12日(木)

出席者 運営委員 11名(欠席1名)、事務局4名 計15名

- 内容
1. おだがいさまのまちづくり計画2020について
 2. コロナ禍での事業推進状況
 3. 今後のボランティアセンターの役割について
 4. 各委員所属団体等の現状

<ボランティアセンター来所者数>

年度	合計	来所の主な目的
31 (R1)	1,657人	ボランティア保険相談・申請、ボランティア依頼・登録等の相談、ボラセン事業手伝い、情報提供等
R2	1,050人	
R3	1,020人	

<ボランティア登録状況>

年度	個人	団体	主な分野
31 (R1)	79人	70団体	読み聞かせ、昔語り、福祉施設での活動、生活支援(傾聴含む)、学生・若者の活動、障がい者支援、子ども支援、災害支援、人材養成、環境美化、健康増進、外国人サポート、国際、演芸、まちづくり等
R2	36人	63団体	
R3	52人	68団体	

< ボランティアセンター相談件数（電話・来所） >

（単位：件）

年度	活動依頼								活動希望 (計)	その他の相談対応						合計	
	高齢	障がい	子育て	環境	地域	イベント	その他	小計		ボラ保険	講座・助成金・福祉学習・出前	物品等貸出	寄付・収集活動	災害(平時含む)	その他		
31 (R1)	37	21	12	4	3	7	0	84	16	-						15	115
R2	2	4	0	1	1	1	5	14	39	171	114	37	157	115	345	992	
R3	4	3	3	1	1	6	13	31	44	199	134	74	150	31	231	894	

※令和2年度から活動希望、活動依頼の他に5項目を追加し、それ以外の問合せ等を含む対応もカウントすることにしたため件数が増加。

◇ ボランティア活動を促進する取組等

・交流・研修会の実施（災害関係を除く）

山間部では冬期間に除排雪ができない一人暮らし高齢者等が増加していることから、令和3年度は、地縁組織以外の企業や団体等を対象に、除雪活動につなげるための研修会を開催しました。

<実施内容>

事業名	テーマ	場所	参加人数
ボランティア・公益活動研修会	除雪の担い手不足	にこ♥ふる	64人

※鶴岡市ボランティア連絡協議会等との共催事業

・企業等と連携した活動

企業や高等学校からの社会貢献活動によるボランティア活動の相談を受け、地域課題や学習支援に対する活動へのマッチング支援を行いました。

<実施内容>

相談件数	実施件数	延人数	主な内容
13	13	74	<ul style="list-style-type: none"> 企業：除排雪、雪下ろし、カーブミラー清掃、フードドライブ、学校へ除菌スプレー缶の寄付、チューリップ園の植栽等 高等学校：ひとり親家庭等への学習支援活動

・ボランティア団体助成事業

ボランティア団体の活動を支援し、地域福祉力向上を図るため8団体へ助成金（計150,000円）を交付しました。

< 交付団体数（分野別） >

（単位：件）

年度	芸能	読み聞かせ	昔語り	学生若者	高齢者支援	障がい者支援	子ども子育て	その他	計
31 (R1)	1	1	0	1	0	2	1	0	6
R2	0	1	0	2	1	1	2	0	7
R3	0	1	0	1	0	1	3	2	8

< 交付団体名 >

- 1) サロンお話の部屋 2) 高校生ボランティアサークル「かだんこの会」
 3) 要約筆記「おひさま」 4) NPO法人日本国末端技術研究所 5) みんな食堂の野
 6) 百凜花 7) 庄内こころ塾 8) つるおかオレンジサポートの会

◇ 災害に関する取組

・災害ボランティアセンター設置・運営訓練

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、鶴岡市総合防災訓練が中止されました。また、災害ボランティアセンタースタッフの担い手として想定される団体等を対象に研修会と訓練を実施し災害時の対応を学びました。

< 実施状況 >

開催月	開催地	参加人数	備考
7月	にこ♥ふる	36人	青年会議所、NPO、鶴岡市社協職員等を対象に、災害ボラセンスタッフ対応に関する訓練。
9月	由良地区	—	市主催 新型コロナウイルス感染症の影響により中止。

・災害ボランティアセンター研修会

市内の各種団体を対象にして、災害ボランティアセンターや平時の取組等を理解していただく出前講座を実施しました。

< 実施状況 >

研修名	テーマ	参加人数
藤島地域民生児童委員協議会研修会	災害時の民生委員・児童委員活動について ～平常時・発災時・発災後 それぞれの視点～	37人
老人クラブ羽黒支部会員研修会	災害発生時の様々なボランティア活動 ～そして日頃からやっておきたい地域の備え～	53人
鶴岡朝陽ライオンズクラブ研修会	災害発生時に期待するライオンズクラブの取組～その強みを活かした支援活動を考える～	18人

・災害ボランティアセンター連絡会

月 日 令和3年12月8日(水)
 場 所 にご♥ふる3階 栄養指導研修室
 内 容 (報 告) 令和3年度災害ボランティアに関する取組、他
 (意見交換) 「災害発生時を想定した、被災地住民組織の対応と平時の取組について」
 (出席人数) 構成員8人(9人中)、事務局4人 計12人

◇ 各福祉センターの主な取組

<実施状況>

	内 容
ボランティアセンター (鶴岡福祉センター)	・ちょボラ場(ちょっとしたボランティア活動) 延べ200人参加 ・学生ちょボラ場(高校生対象) 延べ29人参加 ・車いす貸出事業 計39件貸出
藤島福祉センター	・ちょボラ場(ちょっとしたボランティア活動) 延べ200人参加
羽黒福祉センター	・ボランティア活動支援(傾聴ボラ シャベってほっとの会) ・サマーチャレンジ 羽黒町身体障害者福祉協会の協力により「ボッチャ体験」36名参加、「青色駐車場整備」14名参加
櫛引福祉センター	・サマーチャレンジ in くしびき 「郷土カルタ作成」・「青色駐車場整備」 延べ23名参加
朝日福祉センター	・配食モデル事業 ボランティアグループほほえみ桜の会 協力者10名
温海福祉センター	・青少年ボランティア育成講座 ボランティアの理解・地域の美化活動 延べ39名参加

◇ 福祉教育の推進

・福祉学習助成金交付状況

児童・生徒の「福祉のこころ」を育むため、小・中学校と連携した福祉学習、ボランティア体験学習に対して助成金を交付しました。

<実施状況>

年度	小学校	中学校	高等学校 (高専含)	特別支援 学校	計	
					学校数	金額
31(R1)	14校	5校	4校	1校	24校	534,000円
R2	11校	2校	5校	0校	18校	393,000円
R3	14校	2校	4校	1校	21校	559,200円

※助成限度額 1校当たり30,000円

・福祉学習サポーター活動

福祉学習等に協力するサポーター16人が登録しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、最小限のサポーター依頼による福祉学習となりました。

<実施状況>

年度	回数	延べ人数	実施内訳（延べ回数）
31(R1)	9回	33人	小学校5、中学校3、サマーチャレンジ1
R2	3回	4人	小学校2、中学校1
R3	8回	11人	小学校5、中学校1、サマーチャレンジ2

・各福祉センターの主な取組

<福祉学習・ボランティア講座の実施状況>

	回数	参加延べ人数	内容・対象
鶴岡福祉センター	17回	930人	・障がいを理解する福祉体験学習 小学校13、中学校3、団体1
藤島福祉センター	3回	26人	・福祉体験学習「災害体験」「農業体験」 ・子ども防災教室 小学校3校・藤島児童館
羽黒福祉センター	1回	61人	・障がいや認知症に関する理解促進を図る学習 中学校1校
櫛引福祉センター	10回	187人	・ふれあい福祉講座 地域住民（サロン出前講座） ・平和学習 小学校1校、中学校1校
朝日福祉センター	2回	50人	・視覚障害のある方・車いすユーザーの講話、サウンドテーブルテニス体験 小学校1校
温海福祉センター	2回	93名	・グループワーク「生徒の視点から温海の将来を考えてみましょう」 ・福祉学習「ジェンダー（人権擁護）について」 中学校1校

⑥ 地域福祉運営事業

・福祉のつどいの開催

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により福祉のつどいは中止としましたが、地域福祉活動などに功績顕著な6個人、10団体に対して表彰を行いました。

<実施状況>

年度	活動紹介	講演	表彰数	参加者数
31 (R1)	想いをカタチに～おだがいさまのまちづくり～ (第二学区、第六学区、三瀬地区、藤島地域、櫛引地域の地域福祉活動紹介)	「社会的孤立を防ぐ～支え・支えられるおだがいさまのまちづくりを目指して～」 社会福祉法人藤里町社会福祉協議会 会長 菊池まゆみ氏	個人 7 団体 5	333 人
R2	新型コロナウイルス感染症の影響により中止		個人 2 団体 7	—
R3	新型コロナウイルス感染症の影響により中止		個人 6 団体 10	—

・「鶴亀番付」の発行

数え年で 100 歳以上の長寿者をお祝いするとともに市民の励みとしてもらうことを目的に、敬老の日に合わせて鶴岡市と連携し「鶴亀番付」（相撲の番付風に長寿者を記載）を発行しました。

- ・発行部数 900 部
- ・配布先 番付掲載者、公民館、学区・地区社協等、各福祉センター、高齢者福祉施設等

<番付掲載者数の状況>

年度	人数
31(R1)	172 人
R2	200 人
R3	215 人

⑦ コミュニティソーシャルワーク機能の充実

令和 3 年度から、地域福祉課と各福祉センターの職員を地域福祉ワーカーとして位置づけ、コミュニティソーシャルワークの実践体制を構築し個別ケースの相談対応にあたりるとともに、関係機関へ周知し、早期対応のための連携強化を図りました。

<相談内容>

(単位：件)

内容	生計	就労	住まい	家族	医療・健康関係	近隣トラブル	介護関係	人権・法律	後見制度関連	教育	ひきこもり	会議等	その他	合計
鶴岡	135	35	78	22	36	31	20	6	5	—	9	17	20	414
藤島	76	9	1	5	11	—	1	3	1	4	—	4	12	127
羽黒	59	6	1	3	40	—	1	3	11	2	7	4	1	138
櫛引	67	29	37	4	18	2	8	2	—	1	19	1	—	188
朝日	23	20	13	6	8	2	—	—	—	—	—	13	37	122
温海	187	109	30	44	61	3	10	8	3	8	34	32	49	578
合計	547	208	160	84	174	38	40	22	20	15	69	71	119	1,567

※相談内容のカウントは重複あり。

※鶴岡は地域福祉ワーカーが受けた相談件数を記載。

※藤島、羽黒、櫛引、朝日、温海の相談件数はふれあい福祉相談の件数を記載。

⑧ 地域における公益的な取組の推進

生活困窮世帯への支援を行うとともに、連絡会参加法人職員の公益的取組に対する意識啓発を図ることを目的に参加法人合同でフードドライブを実施しました。

また、活動の周知のため鶴岡市社協ホームページに連絡会参加法人の取組内容を掲載しました。

<社会福祉法人における公益的な取組にかかる連絡会>

月 日 令和3年9月24日(金)

場 所 鶴岡市総合保健福祉センター大会議室

参集対象 鶴岡地区特養連絡協議会会員法人の公益的取組担当者

内 容 ・報告 公益的な取組の情報発信について

・協議 連絡会での研修について

各法人合同の取組の試みについて

⑨ 大震災等支援活動推進事業（山形県社協委託事業）

未曾有の大震災から10年の節目を迎えた令和3年度も、山形県社会福祉協議会の委託を受け避難者生活支援相談員1名を配置し、支援活動を継続しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、電話による状況確認が主となりましたが、ほとんどの避難者の方々が、地域の一員として安定した生活状況であることを確認しました。

<避難者数の推移>

(単位：世帯/人)

年度	全体		福島県		宮城県	
	世帯数	人数	世帯数	人数	世帯数	人数
31 (R1)	35	97	28	77	7	20
R2	34	95	27	75	7	20
R3	33	91	26	71	7	20

※各年度末の世帯数及び人数

・避難者交流事業

大震災から10年目を迎えた節目の年として、避難者の全世帯を対象とした交流会を計画しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

・訪問、相談活動

山形県の事業による全戸訪問を実施し、現況を把握するとともに、今後の生活に関する意向を確認しました。また、健康不安のある世帯や高齢者世帯には、山形県看護協会の協力のもと同行訪問を行い、健康相談をあわせて行いました。

<相談対応状況：方法>

(単位：件)

年度	訪問	電話	メール	来所	つなぎ	他	合計		
							避難者	支援者	計
31 (R1)	205	379	396	62	2	50	355	739	1,094
R2	189	366	401	49	2	2	332	677	1,009
R3	106	234	191	31	0	10	221	351	572

<相談対応状況：種別>

(単位：件)

年度	住まい	健康医療	子ども	高齢者	職業	金銭	他	合計		
								避難者	支援者	計
31 (R1)	126	286	98	325	58	25	832	755	995	1,750
R2	60	308	106	232	107	33	828	814	860	1,674
R3	23	214	82	119	57	0	413	524	384	908
連携先	福島県避難者支援課、山形県復興・避難者支援室、山形県社会福祉協議会、山形県看護協会、鶴岡市関係各課、やまがた避難者支援協働ネットワーク、ボランティア団体等									

※合計欄には、避難者と支援者の合計数

※<相談対応状況：種別>については重複あり。

- ・関係団体との連携

山形県看護協会と連携し、同行訪問時に避難者の方々の健康相談に対応しました。

⑩ 就労体験受け入れ事業

鶴岡地域生活自立支援センターにおいて就労について相談された方に対し、鶴岡市社協の福祉施設で期間を限定して雇用し、働くための生活リズムを整え、継続就労に向けた働く機会の場を提供しました。

<実施状況>

(単位：人)

年度	体験者数	一般就労への移行者数
31 (R1)	0	0
R2	2	1
R3	1	0

⑪ 家族介護者交流事業（市委託事業）

在宅介護者を対象として、関係機関の協力を得て、講話や介護相談、参加者同士の交流と情報交換により介護者の心身のリフレッシュを図りました。

年度	鶴岡		藤島		羽黒		櫛引		朝日		温海	
	回数	人数										
31(R1)	4	63	1	14	2	29	2	17	1	14	2	15
R2	—	—	—	—	—	—	1	19	—	—	—	—
R3	—	—	—	—	—	—	1	14	—	—	—	—

※令和2年度から櫛引地域以外は他法人が受託し開催。

⑫ 福祉バス運行事業（市委託事業）

福祉関係団体やボランティア団体等の地域福祉推進を目的とした研修や社会参加活動に対し、福祉バス運行による支援を行いました。令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、事業等の中止や利用団体の活動自粛に伴い、運行日数、回数ともに減少しており、運行にあたっては感染拡大予防対策として乗車定員の2分の1を上限として運行しました。

<実施状況>

年度	鶴岡			藤島		
	運行日数	運行回数	延べ利用人数	運行日数	運行回数	延べ利用人数
31 (R1)	228 日	378 回	6,423 人	61 日	62 回	979 人
R2	57 日	83 回	931 人	12 日	12 回	132 人
R3	92 日	129 回	1,544 人	13 日	13 回	139 人

※運行台数：鶴岡地域 2 台、藤島地域 1 台

⑬ 老人福祉センターの運営事業

高齢者に対して健康の増進、教養の向上、生きがいの増進及びレクリエーションなど気軽に利用できる場として運営し、社会参加の促進を図りました。

<開設・利用状況>

(単位：人)

年度	鶴岡		藤島		羽黒		櫛引	
	開設 日数	利用 者数	開設 日数	利用 者数	開設 日数	利用 者数	開設 日数	利用 者数
31 (R1)	240 日	16,503 人	0 日	0 人	235 日	2,123 人	240 日	3,771 人
R2	222 日	12,105 人	30 日	241 人	217 日	1,191 人	243 日	3,359 人
R3	202 日	8,485 人	40 日	344 人	212 日	927 人	242 日	2,754 人

(4) 共同募金配分金事業

① 募金運動

全福祉センター一律に、赤い羽根募金と歳末たすけあい募金合わせて戸別募金 500 円を目安に募金運動を展開し、住民の方々から多くのご協力をいただきました。

<募金実績>

(単位：円)

年度	戸別募金	学校募金	法人募金	その他募金	合 計
31 (R1)	16,517,627	764,911	961,500	1,930,627	20,174,665
R2	16,419,528	666,604	965,500	1,748,529	19,800,161
R3	16,202,350	555,957	921,000	1,799,581	19,478,888

② 配分

赤い羽根募金（令和 3 年度分）については、市内の 18 の事業所等に配分決定され、令和 4 年度の地域福祉活動等に配分金が活用されます。歳末たすけあい募金については、経済的に支援が必要な世帯及び児童養護施設入所者に義援金としてお渡しし、新たな年を迎えるための一助としました。

<福祉施設・団体への配分>

配 分 事 業	R3 年度		R2 年度	
	件数 (件)	金額 (円)	件数 (件)	金額 (円)
地域福祉・在宅福祉事業	7	2,007,000	9	2,349,000
「福祉の心」推進事業	1	50,000	3	180,000
障がい者小規模作業所支援事業	1	100,000	4	600,000
民間立学童保育所支援事業	7	700,000	11	1,452,000
福祉車両整備事業	2	2,208,000	2	2,777,000
合 計	18	5,065,000	29	7,358,000

<地域福祉活動推進のため鶴岡市社会福祉協議会へ配分>

(単位：円)

配分事業	R3年度	R2年度
ボランティア活動推進事業	1,432,888	1,859,161
地域支え合い体制推進事業	4,840,000	4,905,000
広報誌発行事業	1,500,000	1,500,000
合計	7,772,888	8,264,161

<歳末たすけあい募金配分>

区分	世帯員数	R3年度		R2年度	
		件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)
経済的に支援 を必要とする 世帯	1人	227	1,362,000	237	1,422,000
	2人	98	784,000	102	816,000
	3人	60	600,000	59	590,000
	4人	33	396,000	33	396,000
	5人以上	34	510,000	24	360,000
	小計	452	3,652,000	455	3,584,000
児童養護施設入所児童・生徒		19	365,000	13	245,000
小計		471	4,017,000	468	3,829,000
募金運動に関わる事務費経費		—	120,000	—	114,000
合計		471	4,137,000	468	3,943,000

(5) 地域福祉活動計画及び地域支え合いプラン

・第3次鶴岡市地域福祉活動計画の推進及び進行管理

地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画 2020」（計画期間：令和3年度～令和7年度）の実施初年度にあたり、地域住民及び関係機関へ計画の周知を図り、特定非営利活動法人日本地域福祉研究所より進行管理及び計画の評価に関する助言・指導をいただきながら計画に沿った事業推進に努めました。進行管理は地域福祉課主体により、作成した進行管理シートを活用しながら社協関係各部署へ確認し、また、学区・地区社協等よりご協力をいただき実施しました。

<会議・研修会実施状況>

開催月日	内 容
令和4年3月3日	鶴岡市地域福祉活動計画推進にかかるオンライン研修会 講 演 「ひきこもりケース支援の今後のあり方について」 講 師 日本域福祉研究所 副理事長 宮城 孝 氏 参加者 市地域包括ケア推進室職員 社協地域福祉課・福祉センター職員

・地域支え合いプランの推進

【鶴岡福祉センター】

令和 2 年度に学区・地区社協等が主体となり策定された小地域の地域福祉活動計画「地域支え合いプラン」を推進するため、令和 3 年度より、学区・地区社協等において、計画に基づいた事業の展開と計画の進行管理に取り組みました。具体的には、地域福祉課において「地域支え合いプラン進行管理・評価シート」を作成。研修会により学区・地区社協等へ進行管理を説明して依頼し、プランで示した事業の取組状況等を確認しながら、単年度ごとの目標や進行状況を専用シートを通じて関係者と共有し、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる住民主体の地域づくり活動を支援しました。

【藤島福祉センター】「藤島地域支え合いプラン」

第 1 次「藤島地域支え合いプラン」は令和 2 年度で計画期間が満了したため、令和 3 年度から次期計画に基づき、引き続き地域の実情に応じた地域課題の解決に向けた取組について、行政や各団体と相互に連携しながら推進しました。

とりわけ地域の特色として取り組んでいる農福連携プロジェクト事業については、地元の高校である庄内農業高等学校から全面的な協力をいただき事業を行いました。

また、開催にあたっては地域のグループホームへの呼びかけや小学生を対象としたサマーチャレンジ事業も同日で開催するなどの工夫をした結果、小学生やグループホーム利用者などの参加もあり多様な交流が図られました。

【羽黒福祉センター】「羽黒おもしろプラン」

第 1 次「羽黒おもしろプラン」は令和 2 年度をもって終了したため、令和 3 年度は第 2 次「羽黒おもしろプラン」の初年度としてプランの周知に努めました。第 2 次「羽黒おもしろプラン」は第 1 次プランの評価を踏まえ自治振興会の聞き取りやアンケートをもとに地域課題を把握し、それらを踏まえ 3 つの重点目標①「誰もがつながる・つなげる見守りの仕組みづくり」②「幅広い世代が集い会える場づくり」③「ともに支え合い助け合える地域づくり」を設定し実施しています。

今後も地域福祉委員会等において具体的な進め方などを確認しながら、自治振興会や集落、行政と連携し、地域課題に取り組むこととしました。

【櫛引福祉センター】「くしびき ささえ愛プラン」

「くしびき ささえ愛プラン」への理解と地域福祉を進めるための話し合いの場として、地域福祉委員会において地域でできることについて話し合い、「地域全体が支え合いを意識できるように活動の輪を広げたい」、「安心カードを見直し、見守りのツールにしたい」、「地域の集まりに防災訓練を入れて交流の場にもしたい」といった意見をいただきました。また、地域の区長や役員の方を交えたふれあい座談会では、それぞれの地区の福祉目標について話し合わせ、各地区の取組として、最近顔を見ない方へのサロンへの誘い、冬期間のゴミ出しへの協力、解決困難な生活課題がある場合は福祉センターと一緒に考えるなど

声があがり、着実に支え合いの仕組みの構築が進められています。

【朝日福祉センター】「朝日地域支え合いプラン」

第2次地域支え合いプラン策定にあたり、朝日地域三つの地区ごとに実施したアンケート調査をもとに、この計画では地域の支え合いを「つどい」「見守り」「生活支援」の3つの活動に分け、それをそのままキーワードにして目標を掲げています。また、朝日地域を近隣・自治会区域・コミセン区域・朝日全域の4層のエリアに区分し、3つの活動目標の実現に向けてそれぞれのエリアでできることをまとめました。どの地区からも困りごととして多く挙がったのが雪に関わるものでした。それを受け、中央コミセンでは令和2年度から、自力で除雪が難しい高齢者世帯等と除雪支援に手を挙げたサポーターをグループ化する取組おだがいさま除雪支援ネットが開始されました。また、東部と南部地区でも除雪や雪下ろしを通じて地域貢献をしたいと考える企業と除雪などの問題に悩む高齢者世帯をコミセンがマッチングする取組が始まっています。

【温海福祉センター】「温海ささえあいプラン」

第2次プラン実施1年目として地区福祉懇談会等の機会を利用し、地域住民への周知を図るとともに、地域福祉委員会でグループワークを実施し、具体的な進行管理について検討しました。孤立の解消では、要援護者マップづくりとの関連もあり、集落ごとに検討し、集落活動への参加を促すなど外出のきっかけをつくり、人との関わりでは、老人クラブや婦人会などのリーダーのなり手がいないなどの問題を踏まえ、ボランティアなどを媒体とした新たな繋がりを検討、さらに隣組を単位とした身近な繋がり、祭り等のイベントによる繋がり、自治会での福祉の受け皿づくりなど、実践可能なものへ取り組んでいくことで話し合いました。

2. 生活支援事業

(1) 総括

新型コロナウイルス感染拡大の影響から 2 年が経過する中、生活福祉資金特例貸付は継続して申請受付期間等が延長され令和 3 年度を迎えることとなりました。また、それに付随し鶴岡市独自の緊急小口資金拡充支援資金貸付も申請受付期間等を延長し対応しています。感染の拡大は世帯の家計状況に大きな影響を与えており、他機関の取組に併せて実施した借受世帯の現況確認では、依然状況の厳しい世帯には他の支援策の紹介や関係機関につなぐなど丁寧な対応に努めました。償還を開始される世帯には金融機関への手続等含め、円滑な償還事務手続を進めました。

地域には 8050 問題⁶や刑余者など複合的な課題を抱えている方も増えていることから、生活支援関連事業につなぐなど、関係機関と連携しながら、その方の生活背景等も視野に個別支援を行いました。

新たな生活支援サービスの検討については、先進事例等を参考に課内で継続して協議を進めます。

(2) 重点事業

① 成年後見制度の意識啓発と連携強化

高齢者や障がいのある方などが権利を侵害されることなくできるだけ長くご本人が望む生活を継続できるよう成年後見制度の利用促進に取り組みました。また、成年後見制度が広く理解され有効に活用されるよう市民や関係機関を対象とした研修会の開催を検討しましたが、新型コロナウイルスの感染状況を考慮し開催は見送りました。

市内の後見業務を受任している専門職・団体の連携強化を図るため鶴岡市成年後見連絡会を開催し、受任状況や課題等について情報交換を行いました。今後も連携強化に努め、権利擁護における地域連携ネットワークの構築を目指します。また、成年後見制度利用促進のための体制整備に係る鶴岡市の施策が示されたことに伴い、今後検討を進めます。

② 日常生活自立支援事業の適格な実施

高齢者や精神・知的障がい者等で判断能力に支障のある方の福祉サービス利用や金銭管理、日常生活上の消費契約、行政手続等の援助を本人の意思を尊重しながら行いました。専門員は相談から契約、金銭課題の解決、その後は地域住民である生活支援員による定期訪問で、生活変化の把握を行いました。利用者の背景は複雑多問題化し、関係機関との連携が必要なケースが増えました。判断能力が低下した利用者については、成年後見制度への円滑な移行を行いました。事故防止のため、預かり書類の総点検や高額預貯金の別通帳への資金移動、

6 8050 問題：80 代の親が 50 代の子どもの生活を支える問題のこと。子どものひきこもりが長期化することによって、親も高齢となり、収入や介護などの問題が発生してくる。外部への相談が難しいことが長期化につながり、社会から孤立しやすい状態となる。

定期預金化等を行いました。銀行支店の統廃合、生活支援員不足、新型コロナウイルス感染症の影響による面会制限のため、口座振替による訪問回数の削減や居住施設ごとに生活支援員の統一等を進めました。生活支援員会議を2回開催し、研修や交流を行いました。地域住民向けの周知活動や研修会は実施を見送りました。

③ 償還指導の実施と生活の安定に向けた支援

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、生活福祉資金特例貸付及び鶴岡市独自の緊急小口資金拡充支援資金貸付については申請受付期間や償還開始時期も延長となっている状況にあることから、引き続き、国等の動向も踏まえた償還事務及び今後示される償還免除事務の進めを進めていきます。

借受後に生活が安定し償還が完了した世帯もありますが、依然厳しい状況の世帯には継続的に関わりをもちながら適切な対応や助言、また必要に応じて鶴岡地域生活自立支援センター等の関係機関と連携し生活の安定につながるよう支援を行いました。

④ 新たな生活支援サービス事業の検討

先進地の事例や鶴岡市社協職員による事業提案コンテスト「ひかり輝く☆取り組みコンテスト⁷」（平成31（令和元）年度）で相談支援部門が行った関係各所からのアンケート結果をもとに、課内で検討を行いました。「住まい」を出発点として、賃貸保証会社が手掛ける見守りサービスの説明等も参考に、賃貸住宅契約時の緊急連絡先や入院、死亡時の各種手続代行サービスの必要性が高いとの結果に至りました。既存のサービスを使いやすくしたり、サービスの隙間を埋めたり、人とのつながりを断ち切らない社協らしいサービスの構築に向け、今後、相談支援機関や先進地の調査等も行いながら、対象者や契約時の確認事項、徴収費用などの具体的な内容を検討し、法人としての方向性も確認しながら事業化を目指します。また「だれでも自分らしい人生の最後を希望している」という視点から、市民を対象にエンディングノートを活用した死後準備の啓発事業も検討しています。

(3) 生活支援関連事業

① ふれあい福祉相談事業

ふれあい福祉相談（常設相談）の相談件数は令和4年3月末現在1,978件となりました。令和3年度から地域共生社会の実現に向け、地域福祉課において各地域に地域福祉ワーカーの配置がなされ体制整備等が強化されたことから、相談件数は前年度比較で300件以上増加し、地域住民からの幅広い相談に対応することができました。相談内容としては、生計に関する相談が約半数を占め、次いで就労や医療・健康関係、住まいの順に多い状況と

7 ひかり輝く☆取り組みコンテスト：施設などにおける業務改善や地域貢献、サービス向上などの取組活動の発表の場を設け、お互いの成果を認め合い、達成感と働きがいのある職場づくりを進めるもの。

なりました。新型コロナウイルス感染症に係る貸付相談は、感染状況に比例し令和 2 年度と比較すると半数程度減少しました。支援困難ケースについては、各福祉センターが取り組む関係機関等との連携を継承しつつ、鶴岡福祉センターでは新たに定期的な検討会議を開催し、関係機関との連携も図りながら、課題解決に努めました。

無料法律相談は 107 件で、相続や債務など金銭に係る相談のほか、離婚、対人トラブルなど多岐に渡る相談がありました。

<ふれあい福祉相談件数>

(単位:件)

項 目		鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	合計
31(R1)年度	常設相談	216	27	42	21	64	199	569
	法律相談	70	8	6	4	7	7	102
R2 年度	常設相談	1,079	61	61	44	87	289	1,621
	法律相談	65	8	8	3	8	8	100
R3 年度	常設相談	825	127	138	188	122	578	1,978
	法律相談	70	8	8	8	7	6	107

② 日常生活自立支援事業（県社協委託）

新型コロナウイルス感染症の影響下にあっても在宅の利用者には訪問回数を削減することなく、生活支援員による定期訪問を行いました。相談件数は関係機関や本人からの日常生活の困りごとに関する内容も含め、再び増加しました。アパートへの転居や福祉サービス利用が本事業との契約を前提に検討されたり、生活保護受給者の生活上の困りごとを保護費で解決できるよう福祉課と調整する事案が増えるなど、事業の役割が関係者間で広く認知されました。利用者は依存症、8050 問題、多重債務、刑余者など背景の複雑化が見られ契約後も関係機関との連携や対応が困難で専門員が継続対応する事例も増えました。最近の傾向では通信やキャッシュレス決済に精通した若い世代の浪費も見られます。事業の効率化が急務で、訪問回数の削減のため利用料を口座振替している入所施設に本人の小遣い分も口座振替での払い出しを申し入れ、実現の見込みとなりました。

<契約件数等の推移>

年度	相談件数	新規契約件数	利用者数
31(R1)	2,406 件	38 件	164 人
R2	1,999 件	55 件	193 人
R3	2,149 件	36 件	193 人

③ 成年後見推進事業

法人後見については、令和 4 年 3 月末現在で新規受任 5 件、終了 2 件の 21 件を受任しています。新規受任では、法人後見運営委員会において委員からの指導、助言をいただきながら適正化を図りました。相続や不動産管理・処分、訴訟問題など専門的見地からの判断

が必要となるケースも増加傾向にあることから、適正に司法等の専門家から助言を得られる体制を検討する必要があります。

また、後見業務を受任している専門職・団体等の連携強化を図るため、鶴岡市成年後見連絡会を開催し、受任状況や課題等について情報交換を行い、ネットワークの構築に努めました。

<法人後見受任件数>

(単位：件)

年度	後見	保佐	補助	合計
31(R1)	6	7	2	15
R2	8	8	2	18
R3	10	8	3	21

④ 生活福祉資金貸付事業（県社協委託）

生活福祉資金貸付は、主に生活費不足を補うための緊急小口資金の貸付が最も多く、次いで教育支援資金、転居費となっています。受験期に入る年度後半からは進学や進級に伴う教育支援費・就学支度費の貸付申請が多くなりました。貸付後は民生委員等関係機関と連携を図りながら償還指導を行うとともに、滞納世帯に対してはたすけあい資金と同様に償還指導を行いました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年3月25日より緊急小口資金、総合支援資金に特例措置が設けられ、令和4年6月30日まで申請期間が延長になり、併せて償還開始までの据置期間も令和4年12月31日まで延長となっています。

令和4年度からは特例貸付の償還免除についての申請も始まる予定であり、適正な事務手続きの対応をしていきます。

<生活福祉資金貸付件数等>

年度	貸付件数	貸付金額
31(R1)	45件	29,052,000円
R2	59件	34,974,000円
R3	39件	20,023,000円

<生活福祉資金新規貸付状況>

項目	鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	合計
総合支援資金	2	1				1	4
教育支援費、就学支度費	6	1		1			8
教育支援費	1						1
就学支度費	1						1
技能修得費	1						1

療養費	1						1
障がい者自動車購入費							0
転居費	8						8
緊急小口資金	14						14
その他	1						1
合計	35	2	0	1	0	1	39

<緊急小口資金・総合支援資金(特例貸付)貸付件数等>

年度	貸付件数	貸付金額
31(R1)	2件	300,000円
R2	538件	158,427,000円
R3	208件	66,755,000円

※令和2年度貸付件数・貸付金額に受付業務代行機関対応分含む。

項目	鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	合計
緊急小口資金特例貸付	95	8	3	2	0	6	114
総合支援資金特例貸付	76	1	3	1	1	12	94
合計	171	9	6	3	1	18	208

⑤ たすけあい資金貸付事業

申請理由の内訳は、低収入の状況において予定外の出費が発生し生活費に不足が生じたケースがほとんどですが、それ以外では、生活保護申請から決定までの生活をつなぐ費用としての申請が多く、中には日常的に金銭管理に問題があるため生活費不足に陥っているケースもあり、状況によっては日常生活自立支援事業の利用やくらしスへの相談につながるなど根本的な課題解決が図られるよう支援を行いました。

滞納世帯に対しては、電話や文書での督促のほかに訪問や面談を行い、現状把握と償還指導を実施しました。必要に応じてくらしスなど他の相談機関への紹介も行いました。

また、償還指導が難しくなる長期滞納者については地域福祉課とも連携し世帯の現状把握を行うとともに再度対応を検討しています。

<たすけあい資金貸付件数等>

項目		鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	合計
31(R1)年度	件数(件)	98	5	1	2	0	5	111
	金額(円)	2,644,000	138,000	20,000	50,000	0	120,000	2,972,000
R2年度	件数(件)	87	1	1	0	0	5	94
	金額(円)	2,260,000	20,000	20,000	0	0	180,000	2,480,000
R3年度	件数(件)	87	3	3	0	1	11	105
	金額(円)	2,082,000	120,000	55,000	0	6,000	290,000	2,553,000

<たすけあい資金新規貸付状況>

(単位：件)

項目	鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	合計
生活費	60	1	2		1	9	73
生活保護つなぎ資金	14	2					16
治療費・療養費	2		1			1	4
入園・入学及び支度金	0						0
住宅費	3						3
転居費	1						1
その他	7					1	8
合計	87	3	3	0	1	11	105

⑥ フードバンクの取組

フードバンクについては、コープフードバンク、地域住民の協力(フードドライブ)、個人や企業からの寄付などに支えられました。継続的にフードバンクの取組を行なっている企業や団体からの寄付も多く、緊急的に食料支援が必要な方へ支援を行うことができました。フードバンクの利用は年々増えており、令和3年度はフードバンクの取組以降、最も多い利用者数となりました。貸付を利用せずに一定期間の生活を乗り切ることができたケースや、生活保護費・年金等の収入が入るまでのつなぎや貸付決定までのつなぎとして利用するケースもありました。フードバンクにつなぐことで経済的負担を軽減する効果があることから、今後も必要性が高まる取組と思われます。

<フードバンク食品提供件数>

(単位：件)

年度	鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	合計
31(R1)	133	9	0	0	0	10	152
R2	103	8	1	1	1	8	122
R3	153	1	6	4	0	15	179

⑦ 緊急小口資金拡充支援資金貸付事業（市独自）

「山形県社会福祉協議会生活福祉資金緊急小口資金特例貸付」の限度額の貸付を受けている世帯を対象に鶴岡市独自に令和2年5月18日より開始され2年が経過しました。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染状況も収束傾向にあったことから貸付件数も減少し、令和2年度と比較すると約4割の93件、9,300,000円の貸付実績となりました。償還では、当初の計画どおりの返済を希望する方が数名おり、金融機関への手続き等踏まえ、口座振替による償還を開始しています。また、一括償還された方には償還完了のお知らせの通知発送等、償還に係る事務手続も進めました。

今後、借受世帯への据置期間の延長及び償還免除の通知等行うなど、円滑な事務手続きが出来るよう努めます。

<緊急小口資金拡充支援資金貸付状況>

		鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	合計
R2 年度	件数(件)	208	7	2	2	3	2	224
	金額(円)	20,800,000	700,000	200,000	200,000	300,000	200,000	22,400,000
R3 年度	件数(件)	85	0	3	1	0	4	93
	金額(円)	8,500,000	0	300,000	100,000	0	400,000	9,300,000

3. 相談支援事業（市委託事業）

(1) 地域包括支援センター

◆ 総括

高齢者等が可能な限り住み慣れた地域でその人らしい生活を継続することができるよう、保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員の三職種が多様な相談支援に対応し、多職種等とも連携しながら、総合相談の拠点として地域への周知と機能の充実に継続して努めました。また、地域における高齢者の生活支援や介護予防の基盤整備に向けて、生活支援コーディネーターが調整役を担いながら、地域住民・関係機関等と協働のもと、地域の支え合いの仕組みづくりを推進しました。

<地域包括支援センター職員配置>

	担当地域	65歳以上 人口	保健師	主任 ケアマネ	社会 福祉士	プランナー	生活支援 コーディネーター
地域包括支援センター かたりあい	第六学区・上郷・大泉・ 三瀬・由良・小堅	6,883	1	1	2	0	1
地域包括支援センター なえづ	第二学区・斎・黄金	3,520	1	1	1	0	1
地域包括支援センター くしびき	櫛引	2,573	1	1	1	1	1

※65歳以上の人口は令和3年3月現在

◆ 重点目標に対する成果・達成

複合的な課題に対し分野を超えて包括的に支援することができるよう、県や市、関係機関等が主催する各種研修会に参加し、包括内でその内容を共有しながら専門職として資質の向上に努めました。また、関係機関等との研修や情報交換等を行いながら、一体的な支援につなげることができるよう連携強化に努めました。

高齢者の自立支援に向けた適切なケアマネジメントや切れ目ない介護予防を継続し、通いの場づくりやフォローアップ等にも積極的に取り組み、地域の支え合いの仕組みづくりにつながるよう継続的な支援に努めました。

<相談件数>

年度	相談件数	内新規	相談形態				相談者	
			訪問	来所	電話	その他	本人・家族等	その他
31(R1)	10,706	361	3,586	969	5,761	390	8,844	6,881
R2	9,588	351	3,152	888	5,143	405	7,848	6,198
R3	8,237	365	2,455	759	4,506	517	6,809	5,024

<相談内容> ※重複含む。

年 度	実 態 把 握	権 利 擁 護 関 係	介 護 関 係	疾 病 ・ 障 が い 関 係	包 括 的	在 宅 福 祉 サ ー ビ ス	医 療 関 係	経 済 的 問 題	事 業 対 象 者 ・ 要 支 援 者	そ の 他	介 護 予 防 ケ ア マ ネ ジ メ ン ト	指 定 予 防 支 援
31(R1)	338	737	2,569	1,733	725	409	548	234	1,268	196	1,955	2,016
R2	468	761	2,360	1,304	656	577	703	321	855	171	2,028	1,895
R3	474	653	2,265	984	687	419	462	166	421	364	1,457	1,476

※事業対象者・要支援者：平成29年度開始した総合事業のうち給付実績を伴わない相談

※介護予防ケアマネジメント：平成29年度開始した総合事業のうち給付実績を伴う相談

※指定予防支援：要支援1又は要支援2の認定者の介護予防・生活支援サービス事業以外の給付実績を伴う相談

<研修参加状況>

内 訳	参加人数	研 修 内 容	
内部研修	22人	防災研修	4人
		接遇・コンプライアンス研修	4人
		安全運転研修	2人
		公益的取組推進研修	12人
外部研修	194人	地域包括支援センター新任職員研修	20人
		地域包括支援センター全体研修	17人
		主任介護支援専門員更新研修	8人
		介護認定調査員現任研修会	6人
		認知症・キャラバンメイト関連研修	22人
		障害者支援研修会	6人
		地域づくり関連研修	32人

		アルコール関連研修	7人
		ケアネットつるおか関連	3人
		地域包括支援センター職員研修	14人
		ケアプラン関連研修	21人
		地域生活定着支援センター研修	12人
		社協活動全国会議	11人
		その他	15人
合計（延べ）	216人		

◆ 事業の実施結果

○ 地域包括ケアシステム⁸構築の推進

地域における包括的な支援及びサービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築に向け、行政をはじめ医療・介護・福祉が連携し体制を強化していくとともに、地域ケア会議や地域ケア個別会議等の開催を通じて、地域組織や多職種との連携の推進に努めました。また、地域の実情把握に努めるとともに、個別課題を整理し解決に向けて取り組みました。

近年の自然災害（台風や豪雨等）により改めて地域のつながりの重要性を実感したことから、要介護高齢者の避難支援体制の構築とともに、介護予防や日常生活が活性化する通いの場の提供など、社会参加を促進し地域とのつながりを深めました。高齢者が主体的に生活しながら自立支援に向けた働きかけを行うとともに、地域ケア推進担当者、関係機関等と連携のもと、地域住民と協働しながら支え合いの地域づくりを推進しました。

<地域包括ケアシステム構築のための事業、会議の回数>

年度	介護予防普及啓発事業	地域ケア連携等の会議	事例検討会議
31（R1）	94	282	15
R2	58	138	17
R3	70	175	17

※介護予防普及啓発事業：地区サロン、なりげんき塾、介護予防講座、住民研修会等

⁸ 地域包括ケアシステム：重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるシステムで、厚生労働省が2025年をめどにシステムの構築を目指しているもの。

○ 地域包括支援センターの機能強化

センター職員の資質向上については、業務に必要な相談技術やケアマネジメント技術の向上、習得のため研修等に積極的に参加し、各職員が学んだ内容を伝達、共有することによりセンター全体のレベルアップに努めました。多職種連携や継続的支援を重視し、高齢者の心身の状況の変化等に合わせた適切な対応が図ることができるよう、要点をおさえた無駄のない記録作成に努めました。

□ 地域包括支援センターかたりあい

地域包括ケアシステム構築に向け、専門職、生活支援コーディネーターが担当地域の関係機関や多職種と連携しネットワークを組み、地域づくりの推進を図りました。また、障害者相談支援センター等と協働し、地域住民の尊厳ある自立した生活の継続に向け支援しました。

□ 地域包括支援センターなえづ

新型コロナウイルス感染症の影響により、地域や関係機関との連携構築の機会が縮小された中、地域の特性や活動の評価を座談会等により関係組織と共有し、個別の医療・介護・生活支援等の相談については関係機関と連携するなど、支援体制の維持強化を図りました。

□ 地域包括支援センターくしびき

介護予防の推進に重点をおき、地域貢献事業や地域の活動支援に取り組みました。また、複合的な課題を抱える方やその世帯に対して関係機関と包括的に関わり、解決を図るとともに地域課題の把握と支援体制の構築に努めました。

(2) 鶴岡市障害者相談支援センター

◆ 総括

障がい者が地域で安心して自立した生活を送ることができるよう、総合相談窓口として本人や家族への相談支援をはじめ、地域の基幹型相談支援センターとして相談支援事業所間の調整や同行支援、困難事例検討、権利擁護相談、障害理解啓発等に取り組みました。

また、鶴岡市障害者地域自立支援協議会（以下、自立支援協議会）活動では、第6期障害福祉計画をもとに、様々な分野の関係機関との情報交換・協議により地域課題の整理や連携強化に努めました。

さらに、自立支援協議会の各部会で検討し、新型コロナウイルス感染症の対応として、様々な分野の関係機関との事業所間の情報収集や伝達共有など、情報発信を行い、高齢者、児童、保健・医療、教育、就労等に関する関係機関とのつながり、顔の見える関係性をつくるため情報交換を行い連携強化に努めました。

◆ 重点目標に対する成果・達成

障がい特性、状況の複雑化、多様化に応じた総合的な相談支援を行うため、対応困難なケースについての個別支援会議を開催しました。

障害理解啓発事業においては、「つるおか障害者アート展」を開催、YouTubeによる配信も行うことで芸術作品や活動の発信拡大に努めました。

障がい者の重度化、高齢化、親亡き後を見据えた相談体制の拡充、緊急時の受け入れ体制等を整備する「地域生活支援拠点事業」については、事業所登録するとともに中核を担う基幹型相談支援センターとして機能を整理しました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインを使っでの会議や研修を積極的に開催し、関係機関との連携維持、職員の資質向上を図りました。

◆ 事業の実施結果

○ 総合的、専門的な相談支援

障がい者の関係機関の連携が図られるよう、医療、教育、労働などに関する専門機関と顔の見える形で情報共有の場を持ち、事例検討や制度勉強を通じて資質向上に努めました。支援困難ケースなどに対しても関係機関会議や後方支援など他職種と連携を図り対応し、課題整理を行いました。

<相談状況>

(単位：件)

年度	相談件数(延べ人数)			うち新規件数		
	計	障害者	障害児	計	障害者	障害児
31 (R1)	8,481	7,817	664	143	106	37
R2	8,916	8,312	604	126	98	28
R3	9,799	9,179	620	103	85	18

<相談方法>

(単位：件)

年度	計	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援会議	関係機関調整	その他
31 (R1)	13,183	2,613	609	259	3,059	71	70	6,291	211
R2	13,079	2,509	640	252	3,248	77	59	6,069	225
R3	13,669	2,191	663	301	3,627	162	64	6,341	320

<相談内容の内訳>

(単位：件)

年度	計	福祉サービス利用	障がい・病状理解	健康・医療	不安解消 情緒安定	保育・教育	家族・人間関係
31 (R1)	9,018	6,075	453	621	610	47	225
R2	9,079	6,205	353	562	471	46	224
R3	10,278	6,565	704	851	646	46	293

年度	家計・経済	生活技術	就労	社会参加	権利擁護	その他
31 (R1)	177	176	144	73	24	393
R2	167	273	222	46	30	480
R3	175	312	279	39	48	320

◇ 障がい者理解啓発・障害者アート展の開催

障害者差別解消、障害理解啓発促進事業の一環として「花笠ほーぷ隊」による知的障がい・発達障がいの疑似体験を通しての理解啓発研修会を予定しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により延期となりました。また、3年目になる「障害者アート展」では、会場の展示の様子や作品の紹介などをYouTube配信し、来場できない方にも見ていただける機会を設けることができました。配信から2週間で再生回数300回を超え、関心の高さが伺えました。

開催月日	イベント名	参加人数	内 容
10月1日 (金) ～ 10月10日 (日)	「障害者アート展」	来場者 963名	開催場所：鶴岡アートフォーラム 名 称：「さあ咲き誇れ!! つるおか ひょうげんの花 2021 ～鶴岡の障害のある人の表現活動 を紹介する展示会～」 内 容：①「わたしの花を咲かせましょう」 個性的な「花」を展示 出品数：43点 ②「つるおか障害者アート展」 公募した作品の展示 出品数：146点（個人・共同） ③やまがた障がい者芸術作品公募 展 入賞作品巡回展（同時開催） ④「やまがたのきざしとまなざし 展」（同時開催） YouTube 配信： 10/2～公開中 (3/31 現在 371 回再生・鶴岡市社会福祉協議 会アカウント)

◇ ピアカウンセリング

障がいのある方・家族同士が気軽に交流し一緒に過ごせる時間を作ることにより、参加者同士のつながりと、悩みや将来のことを話し、学び合う場として「当事者交流会」を企画しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

○ 日中活動・余暇支援

障がいの有無に関わらず自由に参加できるサロンとして開設をしていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、土曜日サロンや講習等の事業は中止となりましたが、手話交流、オストメイト協会の相談会として利用がありました。

<サロン実績> ※開設日：月曜～土曜日

年度	開設日数	延来所者数	イベント回数	参加延人数
31 (R1)	265 日	355 人	40 回	216 人
R2	227 日	228 人	6 回	1 人
R3	206 日	38 人	0 回	0 人

<余暇支援実績>

年度	料理教室	備 考
31 (R1)	1 回	1/29 簡単おやつ作り (フルーツどら焼き) 16 人参加
R2	0 回	新型コロナウイルス感染症により未実施
R3	0 回	新型コロナウイルス感染症により未実施

○ 聴覚障がい者への支援

新型コロナウイルス感染症の影響により、聴覚障がい者にとっては今まで以上にコミュニケーションが取れない状況となる中、社会参加・ワクチン接種についても手話通訳者の支援により、聴覚障がい者の安心した地域生活につなげました。

理解啓発の面では、全日本ろうあ連盟制作『咲む』の映画を聴覚障害者と共に企画・実施し 101 人の市民が鑑賞する機会を設けました。

手話奉仕員養成講座は、令和 3 年度は入門編を開催し 16 名の申し込みがあり、講座の他、地域の手話サークルに参加し、ろう者との交流を行いました。

<手話通訳設置事業相談対応状況>

年度	手話通訳	講師依頼	個別相談等	手話通訳者派遣調整 (H29 度～)
31 (R1)	77 件	14 回	144 件	156 件
R2	78 件	13 回	153 件	147 件
R3	99 件	12 回	147 件	226 件

<手話奉仕員養成講座開催状況>

年度	内容	回数	修了者数	備 考
31 (R1)	入門編	19 回	—	
R2	基礎編	24 回	5 人	
R3	入門編	20 回	—	

○ 指定相談支援事業

◇ サービス等利用計画作成

サービス等利用計画作成を通して、障がい者本人やその家族のニーズを聞き取り、障害分野のみならず、関係機関との連携を図り本人やご家族がその人らしく生活できるよう努めました。

また、継続サービス利用支援により、サービスの利用状況や心身の状況、新たなニーズ等を確認するとともに、必要に応じて計画の見直しも行いました。介護保険への移行ケースもあり、スムーズな移行ができるよう情報提供等に努めました。

事業所の廃止、新設に伴う利用者の事業所変更について、本人や家族の意向を聞き取りながらスムーズな利用につながるよう支援しました。

<サービス等利用計画延べ作成数> (単位：件)

年度	新規（実人数）	継続
31 (R1)	51	1,272
R2	83	1,352
R3	103	1,440

◇ 障害支援区分認定調査

センターにおける障害支援区分認定調査の受託は、相談支援体制の充実を図るため、令和3年8月末で終了し、令和3年9月以降の調査は市福祉課による実施となりました。

<調査実施件数> (単位：件)

年度	件数	件数内訳		
		新規	更新	変更
31 (R1)	412	100	294	18
R2	395	109	282	4
R3	135	55	78	2

<障がい別調査実施件数> (単位：件)

年度	件数	件数内訳			
		身体	知的	精神	難病
31 (R1)	412	79	195	138	0
R2	395	75	189	131	0
R3	135	44	52	39	0

○ 障害者地域自立支援協議会

第6期障害福祉計画に基づき課題等の検討ができるよう、新型コロナウイルス感染症の影響のある状況ではありましたが、予防対策を講じZ o o m⁹での開催など、市福祉課と連携し会議を行いました。障がいのある方が地域で安心して暮らすことができるよう、個別支援会議や各専門部会でも他分野との連携強化を重視し、保健・医療・福祉・教育・就労等の関係機関との情報交換会を開催しました。

<各種会議開催状況> (単位：回)

年度	運営委員会	部会長会議	部会及び部会 事務局会議	地域移行 定着委員会	個別支援 会議	事務局 会議（全体）
31 (R1)	1	0	53	1	70	4
R2	1	0	46	0	60	4
R3	2	1	66	1	63	4

⁹ Z o o m : w e b会議システム。

◇ 個別支援会議

個人のみならず、世帯で課題を抱えるケースも多く、介護保険等の協力も得ながら、個別課題への対応や解決、情報共有を行ってきました。退院退所時に係る受け入れ態勢についての会議も多くあり、他機関と協働できるよう話し合いを行いました。また、基幹相談支援センターとして市内相談支援事業所の相談支援専門員への同行支援・助言、会議を開催し、より多面的な支援、地域課題の抽出・解決に向けて協議しました。

◇ 専門部会

4つの専門部会において、地域課題や社会資源情報の集約、課題別情報交換会・研修会の開催、事例検討会等に取り組み、協議会の中心的な役割を担いました。令和3年度は、他機関との連携を重視し情報交換会を開催しました。

部 会 名	内 容
相談支援部会	<p>質の高い切れ目ない相談支援の提供と、本人やご家族が安心して地域生活ができるネットワーク構築を目指して次の活動を行いました。</p> <p>① 相談支援専門員の人材育成</p> <p>市内に事業所を置く8つの相談支援事業所の相談支援専門員を対象に、制度の勉強やグループスーパービジョン¹⁰による事例検討の機会を設け相互のスキルアップを図りました。事例検討で、障害がある方の地域課題として「新型コロナウイルス感染症の影響による孤独・孤立」「治療意思がないアルコール依存の方の支援」「一人暮らしを体験する機会がない」「医療的ケアに対応できる人材・資源の不足」等があがりました。</p> <p>② 他分野他領域との連携強化</p> <p>介護保険への移行や退院時支援等に関する課題共有・連携強化を図るため、地域包括支援センターとの情報交換会、病院相談員との情報交換会を実施しました。</p> <p>また、相談支援事業所や相談支援専門員の周知を図っていくため、パンフレットの更新作業に取り組み配布しました。</p> <p>③ 地域生活を支えるための体制整備</p> <p>医療的ケアを要する方や強度行動障害の方の受け入れ先が見つからない課題があり、令和3年度、各事業所の提供体制・内容等に関する調査に取り組みました。また、令和3年4月から運用が開始された「地域生活支援拠点」に関しても部会内で検証の機会を設けました。</p> <p>※事務局会議12回 部会10回 グループスーパービジョン4回</p>

¹⁰ グループスーパービジョン：一人の支援者が支援をしていく中での課題について、支援者が集まり意見を出し合い、新たな、またより良い解決策及び対応方法を検討していく手法。

しごと部会	<p>障害のある方の一般就労、定着の促進と、就労継続支援事業所の工賃向上、ネットワーク構築を目的として、公共職業安定所や特別支援学校、就労系事業所等の方で構成する部会で協議・情報交換を行いました。</p> <p>就労系事業所情報交換会を行い、鶴岡市内の先進的な取組の発表、事業所が抱える課題を情報交換しました。また、普通高校と福祉関係事業所（就労移行支援、就労継続支援A型、障害者就業・生活支援センター等）との情報交換会を行い、福祉関係機関の事業内容の紹介、普通高校で抱えている課題の把握を行いました。</p> <p>工賃向上への取組としては、企業から発注依頼のあった4件の作業のコーディネートを実施しました</p> <p>販路拡大・事業所周知のためのITの活用についての研修会、第2回目の普通高校と福祉関係機関との情報交換会、企業へ向けた障害者雇用に関する意識調査、就労系事業所の取組を紹介するパンフレットを作成し配布しました</p> <p>※事務局会議 11回 部会 5回 情報交換会 3回 研修会 1回</p>
こども部会	<p>放課後等デイサービス・学童保育所職員の情報交換会を開催しました。例年は放課後等デイサービス事業所のみを対象として開催していましたが、学童保育所を利用する児童の中にも発達に気になる児童がおり、放課後等デイサービスと学童保育所を併用している児童もいることから学童保育所も交えた情報交換会を開催し、それぞれの事業所での悩みや課題、学校や保護者との連携状況などの情報交換を行いました。</p> <p>子ども版障害福祉のしおり、児童発達支援・放課後等デイサービスガイドブックの更新作業を行い、11月に発行しました。また、更新したものは市のホームページへの掲載と各関係機関への配布も行いました。</p> <p>「医療的ケア児支援への適切な支援に向けた連携について」の取組として、医療的ケア児の保護者を対象に研修・情報交換会を開催し、家族同士の情報共有の場ともなりました。</p> <p>※事務局会議 10回 部会研修会等 3回</p>
発達障害部会	<p>これまでの活動でまとめられた地域課題に対する具体的な行動計画をもとに課題解決に向けた次の検討及び活動を進めています。</p> <p>① 切れ目ない相談支援体制の強化</p> <p>総合的にコーディネートできる相談窓口体系づくりに向けて、「発達障害児者の相談を受けてくれるところ」に記載されている相談機関へアンケート調査を実施しました。また、ライフステージ移行における引継課題について教育委員会及び関係機関で検討しました。</p>

	<p>サポートファイルの活用の現状の把握も行いました。</p> <p>② 障害理解の啓発活動 企業における発達障害者への理解啓発に向けて、しごと部会と連携し「花笠ほーぷ隊」による研修会を企画しましたが延期となりました。</p> <p>③ 専門的人材育成 家族支援を強化するために、部会構成員の協力を得て「ペアレント・トレーニング講演会」を開催しました。</p> <p>④ 成人期のサポート 成人期のサポートが希薄になることから、相談しやすい体制づくりに向けて「鶴岡市障害者相談支援センター」の愛称を募集し「にこころ」に決定しました。広く周知を図り、今後の相談につなげていきます。</p> <p>※事務局会議 6 回 部会：3 回 講演会：1 回</p>
--	--

◇ 運営委員会

自立支援協議会活動にて抽出された課題について委員の方々より意見を頂く運営委員会は、2 回とも新型コロナウイルス感染症の影響により書面開催となりました。

◇ 障害者虐待防止の取組

障がい者の虐待に関する相談窓口として、鶴岡市と共に「障害者虐待防止センター」を開設し 2 件受付・対応しました。また、鶴岡市内の障がい福祉サービス事業所の職員を対象とし研修会を開催しました。

〈研修会〉

日 時：令和 4 年 1 月 18 日（火）

内 容：「福祉事業職員としての日々の業務での心構え」

講 師：山形県社会福祉士会 理事長 鈴木一成 氏

会 場：Z o o m によるオンライン開催

参加人数：55 名（うち 44 名 Z o o m、11 名会場）

◇ 広報委員会

自立支援協議会の活動内容をより多くの方々へ周知し、理解していただくため令和 3 年 12 月に「自立支援協議会だより」を発行し、市ホームページに掲載の他、市役所、各地域庁舎、障害者相談支援センターに配置しました。

(3) 鶴岡地域生活自立支援センター（生活困窮者支援事業）

◆ 総括

複雑多様化した生活課題等により、生活困窮状態または社会的に孤立状態にある相談者に対して、安心して自立した生活ができるよう継続した伴走型の相談支援を目指し行いました。令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響への対応として、住居確保給付金の支給対象の拡大や生活福祉資金特例貸付の期間延長等が実施され、常用就職や就業機会の回復を目指すことが困難な生活困窮者等からの相談へ対応しました。

就労準備支援事業については、関係機関との連携や地元企業等からの協力による一般就労を目指した支援と同時に、本人の状態や特性を把握した上で、他者とのコミュニケーションの機会をつくり、状況に応じ医療機関への受診等に同行し、生活基盤の構築を目指した支援を行いました。

◆ 重点目標に対する成果・達成

相談者が抱える課題について、関係機関との連携及び協働により、相談者とともに課題の整理及び解決に向けた方向性の確認を行い、本人の気持ちに寄り添いながら自立につながる支援を行いました。また、就労による自立を目指す相談者については、就労準備支援事業を活用し、民間団体・企業等より協力をいただきながら、日常生活支援、社会自立支援、就労体験による就労自立支援を、本人の状態に応じた段階的かつ柔軟な形式で行い、就労等へつなぐことができました。

<相談件数等>

(単位：件)

年度	新規相談件数	延べ相談件数	プラン作成	増収入者数	就労者数
31 (R1)	186	2,967	40	20	31
R2	387	3,558	38	16	49
R3	335	3,118	12	4	47

<相談内容>

(単位：件)

年度	相談内容内訳																合計
	病気・障がい・健康	住まい	収入・生活費	家賃・ローン	税金・公共料金	債務	仕事探し・就職	地域との関係	家族関係	ひきこもり・不登校	DV・虐待	食べるものがない	介護	教育資金・子育て	依存症	その他(ゴミ屋敷・ペット含む)	
31 (R1)	54	35	101	22	21	25	80	5	18	10	5	5	8	6	0	0	395
R2	7	31	270	8	4	6	41	2	6	3	1	0	2	2	0	4	387
R3	13	33	189	8	2	8	45	0	8	7	2	3	5	0	2	10	335

※H31 (R1) は重複含む

□ 自立相談支援事業（くらしステーション）

◆ 事業の実施結果

○ アウトリーチを中心とした相談支援

本人のみならず世帯が抱える課題に対し支援を行うため、訪問による生活状況を確認し早期の課題把握及び解決に努めました。また、来談しやすい相談の場として、市内中心地より遠方にある地区に出向いた出張・休日相談会を開催しました。さらに、債務整理のための法律相談会や就労支援によるハローワークへの同行支援を行いました。

○ 生活困窮者支援を通じた地域づくり

支援プランの方針、内容の確認、評価と同時に、そのケースを通して、不足する社会資源を地域課題として認識し関係機関と検討する支援調整会議を開催しました。また、関係機関との連携会議に出席し、多職種、分野との連携先を広げ、関係機関等への事業説明により、生活困窮者支援のネットワークづくりを図りました。

○ 相談支援のスキルアップのための研修

新型コロナウイルス感染症の影響による生活困窮や、ひきこもりに関する相談などの困難事例へ対応するための研修会へ参加し、また、ケースの支援方針の共通認識を図るため、随時、相談支援員同士のケース検討を行い、さらに、関係機関を交えての支援会議を開催し、連携が必要なケースの支援の方向性の確認、情報共有を図りました。

<会議・研修・事業周知活動等>

名称	目的	回数	参集、協力、配布等機関
自立相談支援調整会議	・プランの確認、評価 ・就労準備支援事業利用決定、評価	10	福祉課・健康課・ハローワーク・社協（地域福祉課・生活支援課）
三川町支援会議	・支援ケースの確認 ・情報交換	1	庄内総合支庁地域保健福祉課・三川町健康福祉課・三川町社会福祉協議会
くらしすだより発行	・事業内容の周知	2	民生委員児童委員・相談支援機関・一般企業等
自立相談支援の事業説明会	・事業説明 ・関係組織との連携	1	鶴岡市こころ元気アップセミナー
生活困窮者自立支援全国研究交流大会	・研修（リモート）	1	生活困窮者自立支援全国ネットワーク主催

□ 就労準備支援事業（したくホーム）

◆ 事業の実施結果

○ 就労準備支援の強化

就労に必要な基礎能力の形成について支援するとともに、特に独居利用者や体調の整わない利用者については随時、家庭訪問を行いました。また、課題が複雑化した事例に対しては、専門機関や関係者との会議を開催し、方向性を確認しながら支援を実施しました。令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響により受け入れ事業所は限定されましたが、地元企業等の協力により就労体験を実施することができました。

<支援件数等>

(単位：件)

年度	新規件数	終結件数	利用者数	就労者数
31 (R1)	21	5	16	10
R2	2	8	10	13
R3	7	10	12	8

○ 社会資源とのネットワークの構築

医療機関を含む関係機関との連携を図り、したくホーム利用者及びその世帯の抱える課題の解決支援に努めました。また、活動拠点である銀座商店会とのネットワークから、荘内病院内での弁当販売就労体験や内川の藻刈り、商店街の清掃活動、イベントの幟設置・撤去等、地元商店会の活性化の一助となる活動も実施できました。

<令和3年度 就労準備支援事業のプログラム内容>

※主な実施場所は鶴岡銀座商店街鶴岡ダダ3階

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	なりわい部会 就労体験	ががちゃの教え 就労体験	就労体験	銀さん会 就労体験	なりわい部会 就労体験
午後	なりわい部会	なりわい部会 就労体験	就労体験	なりわい部会 就労体験	だだ集会

<地域貢献活動>

毎月2日 銀座商店会早朝美化活動

<プログラム>

なりわい部会：高島産業の工業ブラシ内職作業

ががちゃの教え：一人暮らしを想定した調理・洗濯・裁縫・掃除の実習

銀さん会：銀座通り美化活動・ポスティング・グループワーク

だだ集会：自己主張の仕方、傾聴方法、コミュニケーション練習、アフターセッション練習
模擬面接・履歴書の書き方・社会人マナー講習・

<就労体験>

赤川ゴルフ場除草作業 (6月から10月末日までの毎週火曜日と木曜日)

荘内病院での弁当販売 (毎週月曜日から金曜日)

内川藻刈り作業

第六学区コミュニティ防災センター周辺除草作業

○ 職員研修の実施

生活困窮者自立支援全国研究交流大会における就労準備支援事業のリモート研修に参加し、就労準備支援事業等の利用者の働きづらさの実態やその対応策について学びました。

4. 高齢者福祉事業

(1) 総括

介護保険の基本理念に基づき、「利用者の目指す生活、自分らしい生活」を送るための支援に努め、市民、利用者から信頼され選ばれる高齢者福祉サービスを提供しました。

新型コロナウイルス感染症の対応としては、利用者や職員の感染防止や健康観察、家族介護者への周知を徹底するとともに、国の感染防止対策支援事業補助金を活用し、衛生用品や感染防止対策の物品等の整備を進め、安心・安全な環境のもとで、サービス提供を行うことができました。一方、利用者や職員が新型コロナウイルス感染症の陽性となったため事業を休止する施設もありましたが、集団感染の発生は防止することができました。また、新型コロナウイルス感染症の影響により地域との交流などは十分に行うことができませんでした。

介護職員初任者研修は新型コロナウイルス感染防止のため実習期間を延長しながら行い、14人中12の方が修了することができました。喀痰吸引等の資格取得の研修も引き続き実施し、鶴岡市社協職員をはじめ、鶴岡市内の介護に従事する職員が働きながら福祉専門職に必要な資格を取得するとともに、介護のプロとしてスキルアップし、定着できるよう取り組みました。

介護保険の利用は、令和2年度と比較すると通所介護は延べ利用者数が前年比+6,494人、訪問介護は延べ訪問回数が前年比+5,056回、居宅介護支援は延べケアプラン作成数が前年比+1,332件となりました。引き続き良質な福祉サービスの充実を図るとともに、各事業の現状分析を行いながら事業展開の検討、見直しを進めました。

第三期事業経営計画の取組については、5年間にわたる計画の初年度として、この計画を推進するための推進作業班を立ち上げ、推進メンバーによる全体会議を2回、更に4つの班による会議を開催し、事業経営計画の具体的な取組につなげることができました。

(2) 重点事業

①「第三期 事業経営計画」の推進

重点課題ごとに、推進作業班によるこれまでの取組内容の検証や、継続して取り組む内容、また、新たな課題にも柔軟に検討し対応しました。

基本的な視点	重点課題に対する令和3年度の主な取組み
1. 信頼性の高いサービスの提供	(1) 人権を尊重した良質なサービスの提供 ・利用者の人権擁護、虐待防止の取組みを進めるため、虐待防止実施要綱・組織図、身体拘束適正化実施要綱・組織図を策定しました。 (2) 安全・安心なサービス提供ができる環境づくり ・厚生労働省から示された計画を参考に、災害発生時の事

	<p>業継続計画（BCP）の原案を作成しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症の発生及びまん延防止を防ぐため、特養おおよまで発生想定の上訓練を実施しました。
2. 地域に開かれた施設づくり	<p>(3) 部門間の連携による地域における公益的な取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県社協職員を講師に、職員を対象とした「地域における公益的な取組」の研修を実施し理解を深めました。 <p>(4) 信頼を得るための積極的な情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社協ホームページの活用やICT（情報通信技術）¹¹について検討を行い、各施設の活動の様子の情報発信や、各施設の情報管理担当者の研修を実施しました。
3. 人財育成の推進	<p>(5) 職位に応じた研修体系の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護労働安定センターを講師に班員を対象とした「キャリアパス構築」の研修を実施し理解を深めました。 <p>(6) 次世代を担うリーダーの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目指すべきリーダー像を明確にするため、管理職などへアンケートを実施し、令和4年度に研修内容の検討を行うこととしました。
4. 将来性・継続性を見通した事業の展開	<p>(7) 社会情勢の変化を見据えた事業展開の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の事業展開について、事業経営会議や施設長会議、デイ所長会議で検討を行い、はちもりデイの日曜休業、くしびきデイの認知症型廃止、なえづデイ・愛寿園デイの定員変更などに取り組むこととしました。 <p>(8) 適正かつ効率的な経営管理の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業経営会議や施設長会議で事業分析を実施し、施設経営について検討を行いました。

② 利用者の権利擁護の取組

職員全員が倫理観を高めるよう、利用者に関わる虐待防止研修や接遇研修などを行い利用者の尊厳の保持と権利擁護の推進を図りました。

¹¹ ICT（情報通信技術）：パソコンだけでなくスマートフォンやタブレット、スマートスピーカーなど、様々な形状のコンピュータを使った情報処理や通信技術の総称。介護現場で利用者様の記録を行ない、履歴を呼び出すことで業務の効率化や事故の防止、更にきめ細かな介護を行うことができる。

③ リスクマネジメントの推進

介護事故のリスク把握と組織的なリスク管理、利用者の安心・安全を確保するため施設ごとリスクマネジメントに取り組むとともに、計画的にリスクマネージャーを養成し、組織全体のリスク管理の意識付けと事故防止の徹底に努めました。

また、事故報告書を提出するための判断基準の見直しを行いました。

◆自動車事故報告

自動車事故について、全体では令和2年度比で1件の減となりましたが、後退時の建物への接触など大きな事故につながりかねない事故も発生しました。また、速度超過など交通違反で取り締まりを受けた事案も3件あり、交通法規の遵守を徹底しました。

令和3年12月に交通事故防止を図るため鶴岡市社協全部署を対象とした「安全運転研修会」を開催しました。鶴岡市社協内の事故内容の報告を行うとともに、保険会社から講師を迎え、交通事故のリスクや業務中の事故防止について研修を行いました。研修は新型コロナウイルス感染症の感染防止のため参加者数を制限し、施設職員、福祉センター職員、シルバー人材センターの派遣職員など43人の参加で実施しました。

<自動車事故件数>

(単位：件)

年度	衝突 追突	接触	脱輪	破損 (車輛・物)	人身 事故	交通 違反	不明	合計
31(R1)	8	52	1	6	0	0	3	70
R2	4	44	0	5	0	0	14	67
R3	7	39	1	6	0	3	10	66

◆介護事故報告

事故件数は300件あり令和2年度より33件増となりました。骨折・ひびの事故は減少しましたが、転倒・転落の事故が令和2年度より多く発生しました。また、服薬関係については、施設長会議やリスクマネジメント会議、看護師会議などで服薬マニュアルの確認を行い、職員間で共有しながら事故防止に努めましたが、令和2年度より12件増となりました。今後は事故内容を精査し、更に事故防止に取り組む必要があります。

<事故件数>

(単位：件)

年度	骨折・ひび	服薬関係	その他のケガ等 擦過傷・アザ等	身体以外 連絡忘れ、破損	合計
31(R1)	5	24	25	194	248
R2	15	35	39	178	267
R3	7	47	65	181	300

④ 感染症対策の強化

新型コロナウイルス感染症などの感染症に対する理解と意識を深めるため、リスクマネジメント委員会や看護師会議を中心に研修・訓練の実施やマニュアルの確認などを行うとともに、マスクや消毒液など衛生用品の備蓄を進めました。

⑤ 災害時の地域と連携した対応

災害や感染症等が発生した場合に、地域との連携・協力が大切であることから訓練の実施にあたっては地域住民の参加が得られるよう連携を図ることとしていましたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため十分な連携を図ることはできませんでした。

⑥ 個別機能訓練の充実

高齢者の自立支援や重度化防止を図るため、理学療法士・作業療法士・看護師の専門職による機能訓練メニューや日々の生活に沿ったリハビリ等を通し、個別機能訓練の充実に取り組みました。

制度改正へ対応するため理学療法士・作業療法士が各施設へ訪問し、機能訓練の実施方法や評価の仕方について指導しました。

⑦ 経営的視点を持った施設運営

経営の効率化・安定化が求められているため、各事業の経営分析を行い、経営状況を把握しながら事業展開を図り、特に通所介護事業において、認知症対応型通所介護事業の廃止や利用定員、休業日、人員配置等の検討、見直しを行いました。

⑧ 業務改善への取組

介護職員の人財確保や離職防止、職員が働きやすい環境を整えるため、訪問介護事業や居宅介護支援事業においてICTやAI¹²の導入について検討しましたが、現在使用しているソフトとの互換性や操作方法の確認が必要なため、引き続き検討することとしました。

⑨ 地域交流・地域貢献の推進

これまで各施設で行ってきた環境美化活動は引き続き行いましたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、専門職による出前講座、サロンの開催など、地域交流・地域貢献は十分に取り組むことはできませんでした。

地域の拠点施設として、鶴岡市社協の人財活用を視野に入れた実施可能な公益的な取組については、研修会を実施し理解を深めました。

¹² AI：人工知能を活用したケアマネジメント支援システムで、ケアプラン作成から管理業務を支援し、業務の効率化が期待される。

(3) 高齢者福祉関連事業

① 通所介護事業

地域に開かれた施設を目指すとともに、地域の方から施設に足を運んでいただけるような事業を展開し、地域の中にある施設としての役割を果たしました。

また、利用者本人が持つ力や意欲を引き出せるような支援に努め、さらに、理学療法士・作業療法士・看護師等の専門職による個別機能訓練に力を入れ、利用者の心身機能の維持又は向上に努めました。

認知症対応型通所介護事業については、地域密着型の施設として6ヵ月に一度の運営推進会議¹³を開催し、施設の状況報告のみならず、地域住民や関係機関との意見交換を行うこととしていましたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため書面による報告としました。

通所型サービスA¹⁴については、利用者の身体状況に応じた運動・レクリエーションなどを行い、生活機能の維持又は向上を目指しました。

<通所介護事業実績> (暫定・障がいを除く)

年度	一般	認知症	予防 (支援1.2)	総合事業		合計	平均 利用率
				サービスA	従前相当		
31(R1)	51,117人	10,741人	6人	904人	8,234人	71,002人	75.4%
R2	49,381人	10,488人	0人	927人	7,878人	68,674人	73.7%
R3	46,495人	9,596人	0人	1,708人	4,381人	62,180人	67.3%

② 訪問介護事業

利用者が住み慣れた地域の中で、自分らしい生活の楽しみを見つけながら在宅生活が維持できるよう、関係機関との連携のもと、きめ細やかなサービス提供に努めました。また、喀痰吸引や経管栄養ができる介護職員を継続的に養成し、専門性の高い訪問介護事業所を目指しました。

¹³ 運営推進会議：定員18名以下の小規模型通所介護事業所において、利用者や利用者の家族、地域住民等をメンバーとした会議を開催し、活動状況の報告等を行う会議。

¹⁴ 通所型サービスA：介護保険によるサービスを利用しようとする対象者が、自らが普段生活している場所とは違うところを訪れ、何らかのサービスを受ける形態のこと。

<訪問介護事業実績>

年度	項目	一般			総合事業(従前相当)		合計
		身体介護	身体生活	生活援助	身体含む	生活のみ	
31(R1)	回数(回)	26,390	5,123	18,821	1,689	7,760	59,783
	割合(%)	44.1	8.6	31.5	2.8	13.0	100.0
R2	回数(回)	24,455	5,540	15,754	2,222	7,080	55,051
	割合(%)	44.4	10.1	28.6	4.0	12.9	100.0
R3	回数(回)	21,681	5,811	13,809	2,467	6,227	49,995
	割合(%)	43.4	11.6	27.6	4.9	12.5	100.0

<会員制訪問介護事業実績(いきいきヘルパー)>

年度	延べ利用人数	利用人数(実人数)	延べ利用時間
31(R1)	21人	2人	110.0時間
R2	17人	2人	90.5時間
R3	6人	2人	27.0時間

③ 居宅介護支援事業

医療と介護の連携や質の高いケアマネジメントの推進が求められているため、計画的に会議や研修会を開催し職員の資質向上に努めました。

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、担当者会議やモニタリングなどは短時間での実施となりました。

<ケアプラン作成数>

(単位:件)

年度	要介護		要支援1・2	事業対象	合計
	要介護1・2	要介護3・4・5			
31(R1)	9,124	4,780	2,286	696	16,886
R2	8,707	4,382	2,542	704	16,335
R3	7,823	3,880	2,605	695	15,003

※暫定除く

④ 短期入所事業

利用者やその家族が必要とするときに、必要なサービスを適切に提供できるよう居宅介護支援事業所との緊密な連携に努めながら職員間で利用者の情報を共有し、安心して利用していただけるように努めました。

<短期入所事業利用実績>

年度	おおやま			はちもり		
	延べ利用人数	利用率	平均介護度	延べ利用人数	利用率	平均介護度
31(R1)	8,660人	91.0%	3.0	2,433人	73.9%	2.5
R2	8,453人	89.1%	2.8	2,774人	84.4%	2.6
R3	8,256人	87.0%	2.7	3,023人	92.0%	2.6

⑤ 特別養護老人ホーム、グループホーム

ユニットケアの更なる資質向上を目指し、利用者一人ひとりのこれまでの生活を理解、尊重するとともに、その人らしさを大切に、家庭的な温かい雰囲気の中で日常生活の支援を行いました。

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため地域行事への参加や施設に来ていただくような交流はできませんでした。また、感染防止のため引き続き利用者家族からはオンライン面会や窓越し面会などの協力をお願いしました。限られた時間の中での面会となりましたが、利用者や家族も穏やかに過ごすことができました。

<特別養護老人ホームおおやま> 定員 124人

年度	延べ入居人数	入居率	平均介護度
31(R1)	43,758人	96.4%	4.2
R2	43,808人	96.8%	4.1
R3	44,351人	98.0%	4.1

<グループホームはちもり> 定員 9人

年度	延べ入居人数	入居率	平均介護度
31(R1)	3,270人	99.3%	3.3
R2	3,218人	98.0%	3.2
R3	3,283人	99.9%	2.8

⑥ 高齢者生活福祉センター（市委託）

高齢者に対して、生活支援、居住及び交流などを総合的に提供することにより、安心して健康で明るい生活を送れるよう支援しました。

<くしびき高齢者生活福祉センター> 定員 10人

年度	延べ入居者数	入居者数（一日平均）	入居率
31(R1)	1,134人	3.1人	31.0%
R2	823人	2.3人	22.5%
R3	1,349人	3.7人	37.0%

(4) 独自事業

① 介護職員初任者研修

令和 2 年度に引き続き、介護職員等が働きながら資格取得ができるよう講義の多くを夜間に開催し、新型コロナウイルス感染症の感染防止に努めながら実施しました。

<受講状況>

(単位：人)

年度	受講者数	修了者数	募集定員 (内社協枠)
31 (R1)	19	19	25 (5)
R2	0	0	25 (5)
R3	14	12	20 (5)

※R2 年度新型コロナウイルス感染防止のため中止

② 専門職資質向上研修

新型コロナウイルス感染症の影響で多くの研修が中止や延期となりましたが、オンライン研修を可能な限り受講し、職員一人ひとりの専門性を高め、サービスの質の向上につながるような職員の育成に努めました。

<研修参加人数と内容>

	内 訳	参加人数	内 容
事業推進課企画	安全運転研修会	43 人	表 題：「交通事故防止について」 開催日：令和 3 年 12 月 15 日 (水) 内 容：鶴岡市社協内の事故報告 「事故防止について」 講 師：あいおいニッセイ同和損保
専門職研修	居宅介護支援	29 人	表 題：「Z o o mについて」 開催日：令和 3 年 11 月 15 日 (月) 内 容：Z o o mの操作確認 講 師：鶴岡市社協総務課職員
派遣研修	外部派遣	5 人	カウンセリングゼミナール 障がい児・者福祉関係新任職員研修 リスクマネジメント研修
	資格取得派遣	44 人	認定調査員新規研修 介護支援専門員更新研修 介護支援専門員未経験者研修 主任介護支援専門員更新研修 主任介護支援専門員研修

			認知症介護基礎研修 認知症介護実践者研修 認知症対応型サービス事業管理者研修 サービス管理責任者研修（基礎研修） サービス管理責任者研修（更新研修） 強度行動障がい支援者養成研修（基礎研修） 強度行動障がい支援者養成研修（実践研修）
		4人	リスクマネジャー養成講座（養成・実践）
各施設研修 （内部・外部）	居宅介護支援	1,115人	法令遵守・服務規律 他法人との合同事例検討会 身体拘束と虐待
	通所介護	688人	高齢者虐待防止研修 感染症予防 認知症の正しい知識と理解
	訪問介護	1,199人	社協ヘルパーとして地域福祉の視点を学ぶ 精神障がい研修 身体拘束と虐待
	おおやま入居 （特養・短期）	791人	理念・法令遵守・身体拘束 新型コロナウイルス感染症対応 認知症研修
	はちもり （GH・短期）	149人	食中毒予防 感染対策 身体拘束と虐待
	障がいサービス	480人	虐待防止・権利擁護 工賃向上研修 強度行動障がい支援者研修
合計（延べ）	4,547人		

※合計（延べ）には障がい福祉サービス事業も含む。

5. 障がい者福祉事業

(1) 総括

利用者が、地域の中で安心して自立した日常生活を送ることができるように、関係機関との連携を図りながら、意思決定の支援を心掛け、利用者の望む暮らしに向けた支援と権利擁護の推進を図りました。

障害者相談支援事業所や他の事業との連携のもと、自立支援の視点を持ちながら個別支援を充実させ、利用者に寄り添った支援に努めました。

新型コロナウイルス感染症などの感染症については、利用者や家族介護者が安心して利用できるよう国の感染防止対策支援事業補助金を活用し、衛生用品や感染防止対策の物品等の整備を進め、安心・安全な環境のもとで、サービス提供を行うことができました。利用者が新型コロナウイルス感染症の陽性となったため事業を休止する施設もありましたが、集団感染の発生は防止することができました。また、新型コロナウイルス感染症の影響により地域との交流などは十分に行うことができませんでした。

(2) 重点事業

① 障がい福祉サービスの充実

利用者一人ひとりのニーズを的確に把握して、将来を見据えた個別支援計画に基づき、施設内の職員の連携はもとより事業所を超えた他職種が連携し合い、地域の中で暮らす、本人らしい生活を支えることに努めました。

令和3年度開所した温海グループホーム茶ヤ町荘は、利用者が地域において共同して自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう適切な支援に努めました。

② 利用者の権利擁護の取組

職員全員が倫理観を高めるよう、利用者に関わる障害者差別解消法や障害者虐待防止法などの制度の研修を通し、利用者の尊厳の保持と権利擁護の推進を図りました。

③ 利用者工賃増額の取組

ホームページを活用した商品紹介を行いながら販路の拡大等に取り組み、利用者工賃の増額に努めました。かたぐるまの生産収入は、食パンの定期購入とイベント販売、新規の受注作業（単発）などがあり、大幅に伸ばすことができました。もみじが丘は、地元温海産のお米を使用した米粉で作るケーキやクッキーなどが大変好評で、食品収入を伸ばすことができました。

④ リスクマネジメントの推進

リスクマネジメント委員会による取組の中で、障がい福祉サービスにおける事故や苦情の分析・評価を明確にし、リスクマネジメントの共有を図るとともに、利用者自らが危険防止に対する活動に参画するなど意識の向上に努めました。

◆介護事故報告

事故件数は35件あり令和2年度より11件減となりました。骨折・ひびの事故は減少しましたが、転倒・転落の事故が令和2年度より多く発生しました。また、服薬関係については、施設長会議やリスクマネジメント会議、看護師会議などで服薬マニュアルの確認を行い、職員間で共有しながら事故防止に努めました。今後は事故内容を精査し、更に事故防止に取り組む必要があります。

<事故件数>

(単位：件)

年度	骨折・ひび	服薬関係	その他のケガ等 擦過傷・アザ等	身体以外 連絡忘れ、破損	合計
31(R1)	2	4	6	25	37
R2	4	3	9	30	46
R3	0	3	12	20	35

⑤ 感染症対策の強化

新型コロナウイルス感染症などの感染症に対する理解と意識を深めるため、リスクマネジメント委員会や看護師会議を中心に研修の実施やマニュアルの確認などを行うとともに、マスクや消毒液など衛生用品の備蓄を進めました。

⑥ 災害時における地域と連携した対応

災害や感染症等が発生した場合に、地域との連携・協力が大切であることから訓練の実施にあたっては地域住民の参加が得られるよう連携を図ることとしていましたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、十分な連携を図ることはできませんでした。

⑦ 地域交流・地域貢献の推進

これまで各施設で行ってきた環境美化活動は引き続き行いましたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、専門職による出前講座、サロンの開催など、地域交流・地域貢献は十分に取り組むことはできませんでした。

(3) 障がい者福祉関連事業

① 就労継続支援事業

利用者が生産活動やその他の活動を通し、自立した日常生活や社会生活が送れるよう就労の機会を提供するとともに、新たにホームページを活用した商品紹介を行いながら販路の拡大等に取り組みました。

<就労継続支援事業B型の延べ利用者数> (単位：人)

年度	かたぐるま	もみじが丘	合計
31(R1)	7,804	4,358	12,162
R2	6,377	4,458	10,835
R3	4,223	4,313	8,536

② 在宅支援事業

利用者一人ひとりの障がい特性や個別ニーズに応じ、安心して在宅生活が送れるよう職員の資質向上に努め、支援力の向上を図りました。特に、居宅介護・重度訪問介護事業では、訪問介護員の障がい者支援の専門性を高めるため、研修会への参加や施設実習、喀痰吸引等の専門的な資格を取得し、障がい者の在宅生活を支え信頼される事業所を目指しました。

<生活介護・自立訓練（生活訓練）の利用状況>

	なえづ			かたぐるま			もみじが丘		
	開設日数(日)	延べ利用者数(人)	平均(日)利用者数(人)	開設日数(日)	延べ利用者数(人)	平均(日)利用者数(人)	開設日数(日)	延べ利用者数(人)	平均(日)利用者数(人)
31(R1)年度	310	3,038	9.8	311	5,938	19.1	270	1,577	5.8
R2年度	308	2,808	9.1	311	7,159	23.0	269	1,690	6.3
R3年度	304	2,540	8.4	306	8,222	26.9	269	1,863	6.9

※かたぐるま延べ利用者数に自立訓練（生活訓練）利用者含む。

<訪問介護事業 延べ利用回数> (単位：回)

年度	居宅介護		乗降介助	重度訪問	移動支援	合計
	身体介護	家事援助				
31(R1)	10,701	5,833	152	1,508	94	18,288
R2	10,188	5,139	100	1,348	96	16,871
R3	8,996	4,770	0	1,292	105	15,163

<短期入所事業利用実績>

年度	おおやま		はちもり	
	延べ利用人数	平均障害度	延べ利用人数	平均障害度
31(R1)	—	—	372 人	4.0
R2	7 人	5.0	365 人	4.1
R3	43 人	5.9	391 人	4.3

③ 共同生活援助事業（グループホーム）

利用者が健康で元気に過ごすことができるよう身体状況の変化に早い段階で気づくとともに、感染症予防に留意した適切な環境づくりに取り組みました。

<温海グループホーム茶ヤ町荘> 定員 6 人（男性）

年度	延べ入居人数	入居人数（実人数）	入居率
R3	1,530 人	5 人	69.9%

6. 児童福祉事業

(1) 総括

児童福祉事業においては、引き続き新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら子育て家庭の支援を行い、子どもの健全育成を図りました。研修会や会議等については、感染状況に合わせてリモート研修も取り入れながら、保育の質の向上に努めました。

また、第三期事業経営計画に基づき、保育所、児童館、放課後児童健全育成事業所それぞれの現状と課題を確認し、今後の取組について推進シートの作成を行いました。

(2) 保育所

保育所においては、「主体的に遊べる保育」「自由あそびの環境設定」など、園ごとにテーマを設けて園内研修に取り組みました。

令和3年度も、感染拡大に伴い活動を自粛した行事も多くありましたが、保育環境や行事内容の見直しなど感染拡大防止対策を徹底し、地域住民との交流も実施することができました。

個別支援を必要とする園児が増加傾向にあることから、関係機関との連携を密にしながら家庭への療育支援を行いました。

(3) 子育て支援センター

くしびき子育て支援センターでは、出生数の減少や早期に入園するお子さんが増えたことで利用者数は減少しました。新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて主催事業を中止した際には、電話相談や家庭訪問に切り替えることで、安心して子どもを産み育てられる地域づくりへの貢献に努めました。

(4) 児童館

新型コロナウイルス感染症の流行に伴って、5児童館ともに自由来館者は減少しました。合同事業については、実施できる方法を模索しましたが、前年度に引き続き中止の判断をせざるを得ませんでした。

幼児クラブや主催行事では、人数制限を設けたり、開催日を分散するなどの感染対策を行いながら子どもや親子、保護者同士が安心して集える居場所づくりに努めました。

(5) 学童保育所及び放課後児童クラブ（放課後児童健全育成事業）

学童保育所及び放課後児童クラブでは、小学校に比べて3密になりやすい環境ではありますが、児童や保護者が安心して過ごせるように、保育室の机の配置見直しや遊び場を分散させるなどの感染症対策を行いながら支援を行いました。児童の感染が確認された施設もありましたが、感染拡大することなく再開することができました。

入所希望児童が年々増加傾向にある中、待機児童や保育スペースの確保が課題となっていましたが、令和4年度の事業として鶴岡西部放課後児童クラブのクラブ室増設が確定し、解消につなげることができました。

(6) 子育て広場「まんまルーム」

子育て支援の拠点施設として、保護者同士の関係づくりや育児相談、子育てに関する情報発信など、乳幼児親子を対象とした事業の充実を図りました。鶴岡市内の感染状況により利用人数は変動しましたが、祝日には、あそび場を求めて順番待ちの利用者が出るなど、入場制限が必要なこともありました。

また、令和3年度より、鶴岡市地域子育て支援拠点事業連絡会の一員として加わり、開催される情報交換会や研修会にも参加をすることで、これまで以上に関係機関との連携を密にすることができました。

7. 苦情報告

令和3年度の苦情の件数は182件で、令和2年度と比較すると39件の減となりました。部門別では居宅介護支援が前年比19件の減となりました。これは、サービス調整や利用変更を介護支援専門員一人ひとりが丁寧に対応した成果によるものと思われま。一方訪問介護は増加しました。ミスに対して相手が望む気持ちを苦情・要望として受け止めることで件数増加に至る部分はありませんが、同じようなミスを繰り返さないように努めました。

苦情の内容としては、令和2年度と同じように通所介護、障がい者施設では、件数は減ったものの衣類などを他の利用者に入れてしまう荷物の入れ間違いや送迎時間が予定より早かったり、遅かったりなどで苦情となるケースがありました。また、居宅介護支援の主な内容はサービス調整の変更やキャンセルを事業所に連絡が遅れたり、忘れるなどのケースがありました。

苦情解決は、サービスの質の向上に寄与するものとしてより適切な対応が求められるものになります。引き続き接遇マニュアルの活用やコンプライアンスの意識付けに取り組みながら、今後も利用者の声を大切にするとともに、質の良いサービスの提供、職員の指導や技術向上に取り組みサービスの質の向上につながるよう努めることとします。

< 苦情件数 >

(単位：件)

部門 年度	事務局・老セン	通所介護	訪問介護	居宅介護支援	特別養護老人ホーム	短期入所	グループホーム	障がい者施設	児童館・学童保育所・保育園	地域包括支援センター	福祉センター	合計
31(R1)	1	127	17	53	8	15	0	37	13	0	0	271
R2	3	87	13	42	4	22	0	37	12	0	1	221
R3	0	71	19	23	2	15	1	36	14	1	0	182